

2015
平成27年度

大分の畜産



シバ型草地における親子周年放牧の実践（豊後高田市）

大分県

目 次

I 農業及び畜産の概要	
1. 農業の概要	1
2. 畜産の概要	3
II 家畜別の動き	
1. 肉用牛	4
2. 乳用牛	8
3. 豚	11
4. 採卵鶏	13
5. ブロイラー	16
6. 地鶏	19
7. 生産費と所得の推移	20
III 飼料	22
IV 家畜衛生・畜産環境	25
V 平成28年度 大分県畜産関係補助事業等（抜粋）	27
資料1 畜産関係団体等一覧	31
資料2 畜産関係機関県組織機構	32
資料3 大分県の種雄牛	33
資料4 県内の主要なふれあい牧場	34
資料5 平成27年農林水産部 畜産振興課・畜産技術室の 主な出来事	36

I 農業及び畜産の概要

1. 農業の概要

(1) 本県農業の位置づけ

項目	単位	区 分					資料
		大分県	九州	全国	大分/九州(%)	大分/全国(%)	
総農家戸数	戸	39,576	308,935	2,153,045	12.8	1.8	農林水産省「農林業センサス(平成27年)」
販売農家戸数	戸	24,294	199,094	1,326,755	12.2	1.8	
(構成比)	(%)	61.4	64.4	61.6	95.3	99.6	
農業就業人口	人	34,791	327,009	2,090,014	10.6	1.7	農林水産省「生産農業所得統計(平成26年)」
農業産出額	億円	1,268	17,017	83,639	7.5	1.5	
生産農業所得	億円	415	5,337	28,319	7.8	1.5	
生産農業所得÷農業産出額	(%)	32.7	31.4	33.9	104.4	96.7	
農業産出額÷総農家戸数	千円	3,204	5,508	3,885			
農業産出額÷販売農家戸数	千円	5,219	8,547	6,304			
耕地面積	ha	56,900	549,700	4,518,000	10.4	1.3	農林水産省「耕地及び作付面積統計(平成26年)」
田面積	ha	40,500	320,300	2,458,000	12.6	1.6	
(構成比)	(%)	71.2	58.3	54.4	122.1	130.9	
畑面積	ha	16,400	229,400	2,060,000	7.1	0.8	
(構成比)	(%)	28.8	41.7	45.6	69.1	63.2	
うち牧草地	ha	2,780	14,500	607,800	19.2	0.5	
(構成比)	(%)	4.9	2.6	13.5	188.5	36.3	

(注) 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家。
 農業就業人口：販売農家で、農家に常住し、しかも生活の本拠をそこに持つ世帯員のうち、調査期日前1年間に、「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」。
 生産農業所得：農業産出額から生産のために投入された物的経費を控除して推計したもの。

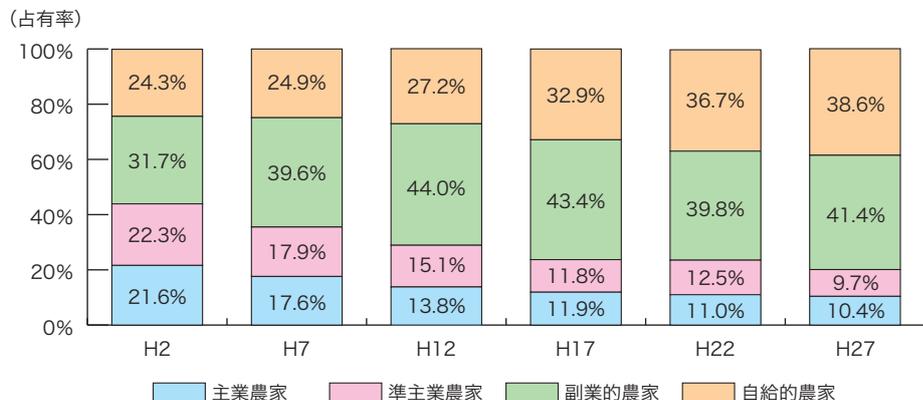
(2) 農家戸数の推移 (大分県)



農家戸数はH27年が39,576戸で、5年前に比べ7,047戸(15.1%)減少した。
 後継者のいる農家割合はH27年が13.3%で、5年前に比べ22.0%減少し、戸数では11,100戸以上減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

(3) 主業副業農家占有率の推移 (大分県)

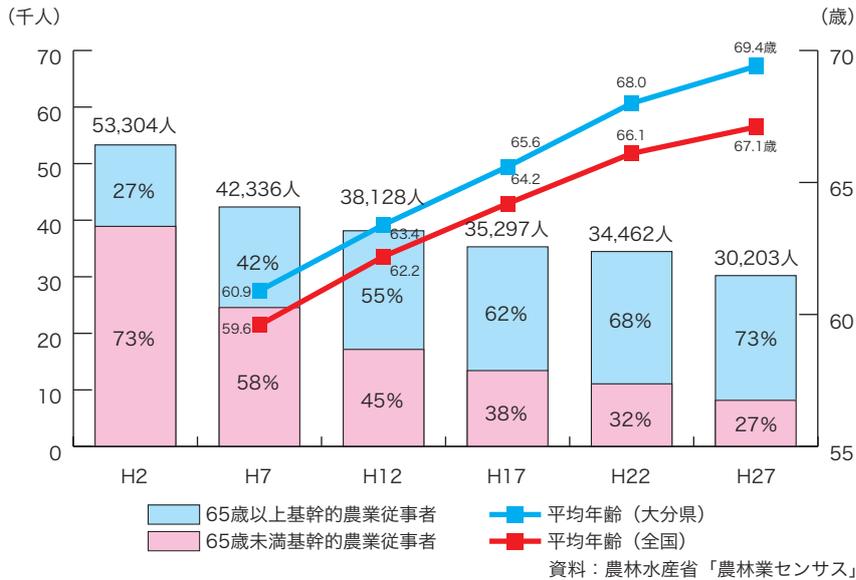


H27年の農家戸数39,576戸のうち主業農家の割合は10.4%(4,103戸)で、H22年に比べ0.6%減少した。
 5年前に比べ、農家戸数は15.1%の減少に対し、主業農家戸数は20.2%(1,041戸)減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

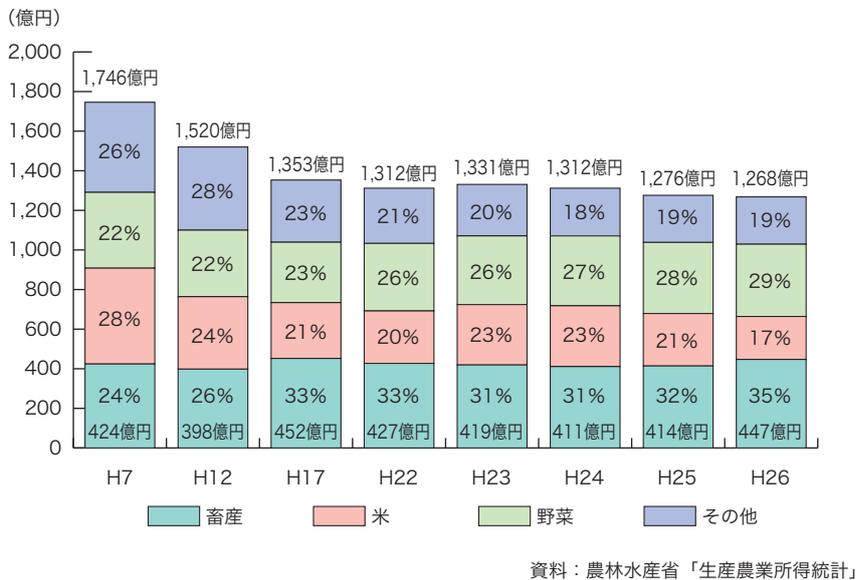
(注) 主業農家：販売農家のうち農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 準主業農家：販売農家のうち農外所得が主で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 副業的農家：販売農家のうち65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家。(主業農家・準主業農家以外の農家)
 自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。

(4) 農業労働力の推移（大分県）



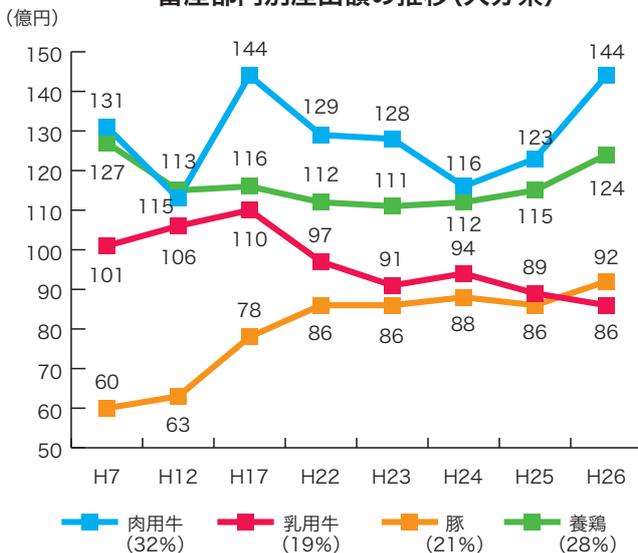
基幹的農業従事者数は、H27年が30,203人で、5年前に比べ12.4%と、減少傾向が鈍化した。65歳未満従事者割合は、H27年が27.4%と5年前に比べ4.6ポイント(2,763人)減少している。平均年齢は、H27年が69.4歳で、5年前に比べ1.4歳高くなっている。
 (注) 基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査日前1年間の普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のこと。

(5) 農業産出額（大分県）

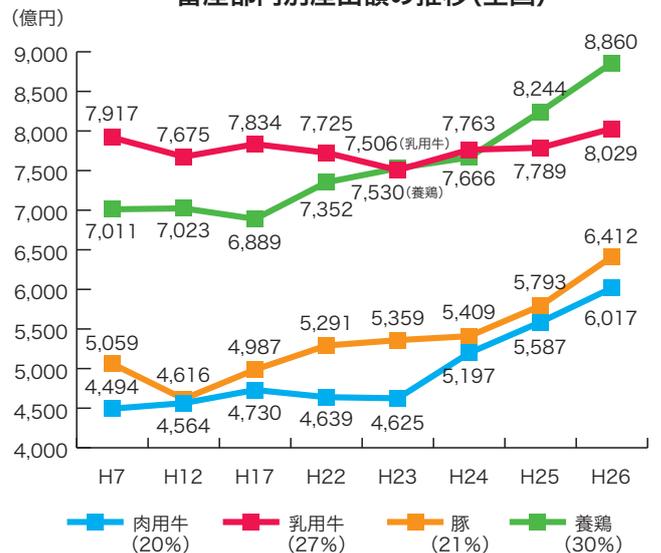


H26年の農業総産出額は1,268億円で、前年に比べ9億円(0.5%)減少した。畜産は447億円で総産出額の35%を占め、前年に比べ33億円(8.0%)増加した。畜産部門では、肉用牛が144億円(畜産に占める構成比32%)で、前年に比べ17.0%増加した。乳用牛は86億円(同19%)で3.4%減少したが、豚は92億円(同21%)で7.0%、養鶏は124億円(同28%)で7.8%増加した。

畜産部門別産出額の推移(大分県)



畜産部門別産出額の推移(全国)



(注) () はH26年の構成比

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2. 畜産の概要

(1) 家畜の飼養戸数・頭羽数（平成 27 年 2 月 1 日）

		大分県		九州			全国		
		実数	対前年比(%)	実数	対前年比(%)	順位	実数	対前年比(%)	順位
肉用牛	戸数	1,360	93.8	23,900	94.8	5	54,400	94.6	11
	頭数	48,700	94.9	894,000	97.0	6	2,489,000	97.0	16
	頭/戸	35.8	101.2	37.4	102.3	5	45.8	102.5	34
乳用牛	戸数	145	92.9	1,750	96.7	6	17,700	95.2	27
	頭数	13,600	96.5	115,200	97.7	5	1,371,000	98.3	17
	頭/戸	93.8	103.8	65.8	101.1	1	77.5	103.3	3
豚	戸数	—	—	—	—	—	—	—	—
	頭数	—	—	—	—	—	—	—	—
	頭/戸	—	—	—	—	—	—	—	—
採卵鶏	戸数	—	—	—	—	—	—	—	—
	千羽	—	—	—	—	—	—	—	—
	千羽/戸	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) H27 年はセンサス実施年のため豚・鶏については未公表

(資料：農林水産省「畜産統計」)

①肉用牛

戸数、頭数ともに全国の上位に位置するが、1戸あたりの飼養頭数は35.8頭（全国34位）であり、H23年の34.0頭から、2年連続で減少していたが、昨年よりやや増加に転じている。

②乳用牛

飼養戸数、頭数ともに前年に比べ減少したが、1戸あたりの飼養頭数は対前年比3.8%増え、九州1位、全国3位の規模となっている。

(2) 認定農業者数（畜産：平成 27 年 3 月末時点）

	県計	畜産単一経営小計					
		酪農	肉用牛	養豚	養鶏	その他	
認定農業者数	4,357	388	106	200	40	41	1
法人数	545	93	30	23	25	14	1
率	12.5%	24.0%	28.3%	11.5%	62.5%	34.1%	100.0%

(注) 「畜産単一経営」とは畜産関係販売金額が農産物総販売金額の80%以上を占める経営をいう

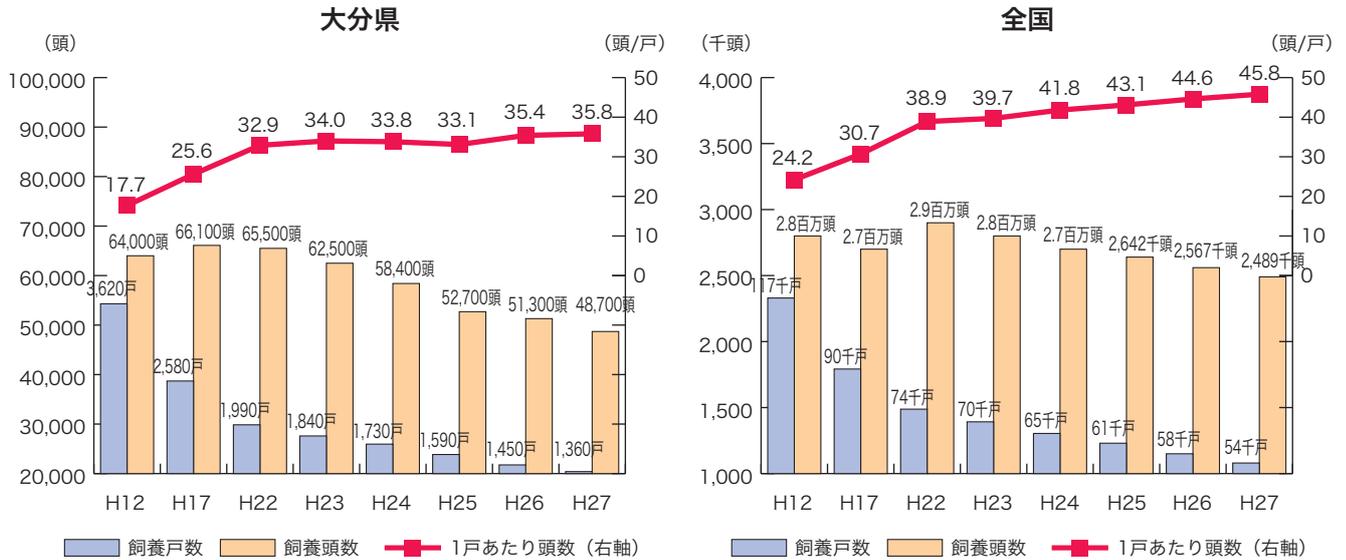
(資料：大分県)

畜産単一経営の認定農業者数は388戸で、法人化率は24.0%と県全体の法人化率12.5%の約2倍となっている。特に養豚、養鶏の法人化率が高く、家族経営が中心の肉用牛は11.5%と県全体の法人化率を下回っている。

II 家畜別の動き

1. 肉用牛

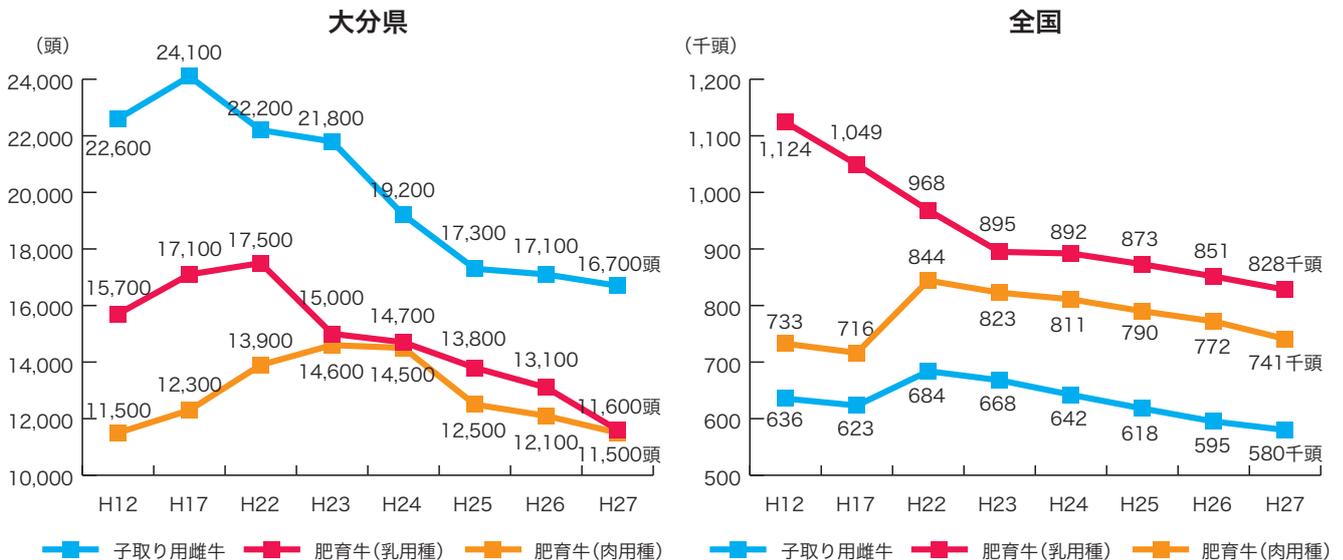
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H27年2月1日現在の飼養戸数は1,360戸で前年に比べ90戸（6.2%）減少した。高齢化や大規模農家の廃業で毎年減少しており、10年間でほぼ半減した。
飼養頭数は48,700頭で、前年に比べ2,600頭減少し、H22年以降の5年間で16,800頭減少した。
廃業に加え、中小規模経営体の規模縮小が進んだことが大きな要因だが、1戸あたりの飼養頭数では35.8頭と、2年連続で増加した。

(2) 用途別頭数の推移

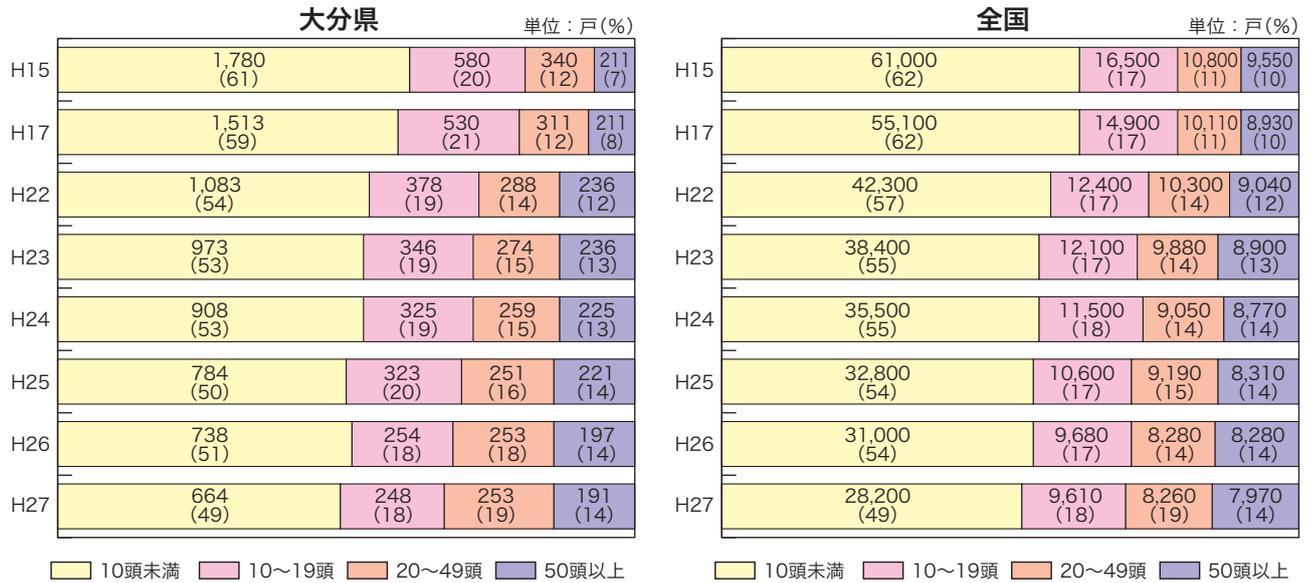


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 子取り用雌牛：子牛の生産を目的として飼養している雌牛（過去に種付けしたことのある牛及び近い将来種付けをすることが確定している牛。）
(注2) 肥育牛：肉牛販売を目的に飼養している牛。したがって、ほ育・育成中の牛でも引き続き自家で肥育する予定のものは肥育牛とする。

子取り用雌牛は167,000頭で、前年に比べ400頭（2.3%）減少した。
肥育牛（肉用種）は、11,500頭で前年に比べ600頭（5.0%）減少した。
肥育牛（乳用種）は、11,600頭で前年に比べ1500頭（11.5%）減少した。
飼料価格の高騰や経営者の高齢化等の影響により、全ての用途で減少している。

(3) 規模別飼養戸数の推移

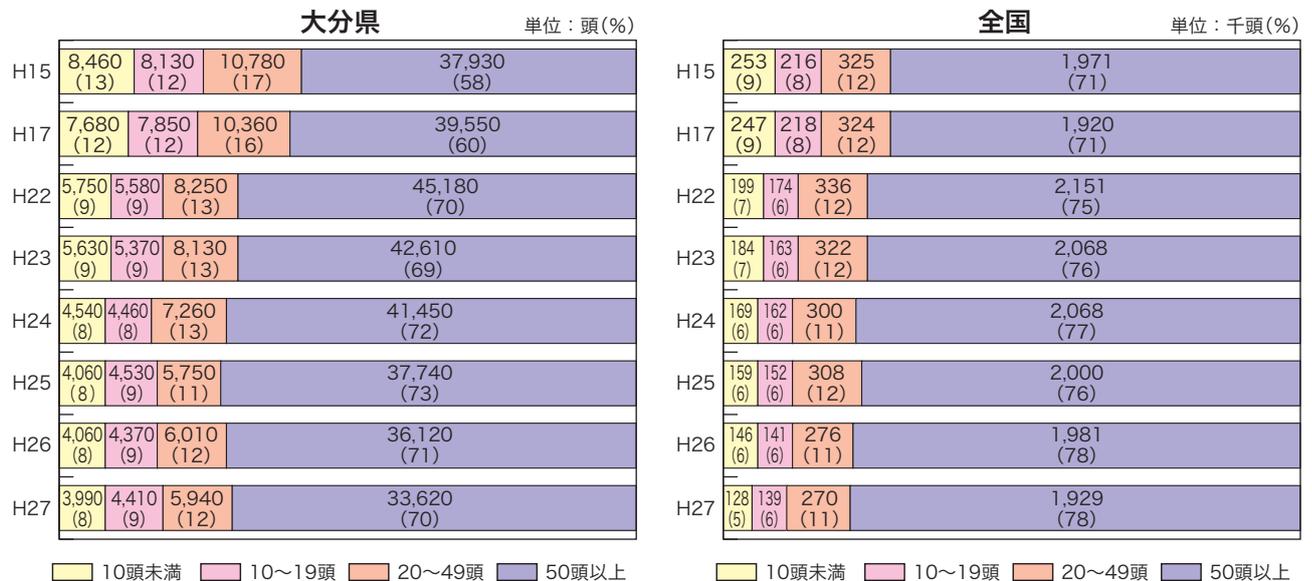


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

大分県、全国ともに大規模層の占める割合が増加しているが、小規模層の減少が大きく、相対的に増加しているものであり、実戸数は減少している。
H27年は前年度に比べほぼ横ばいとなっている。

(4) 規模別飼養頭数の推移

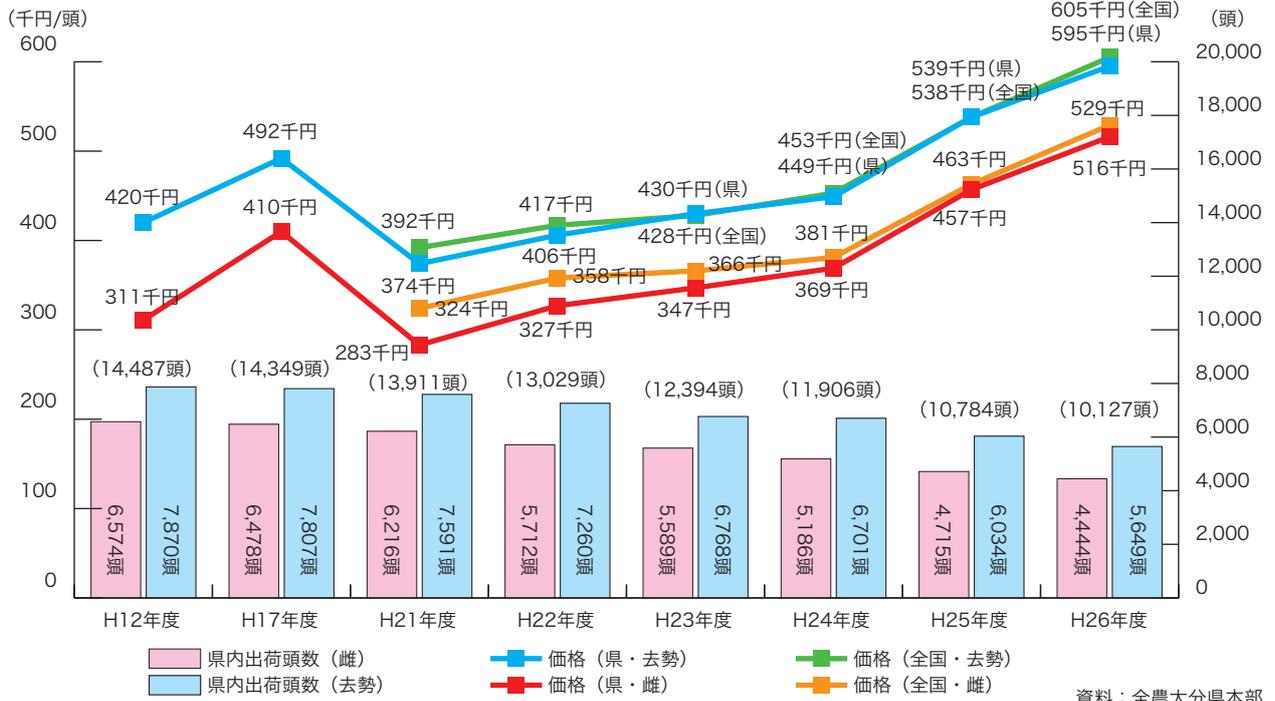


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

全国では、大規模層の占める割合が増加しているが、大分県は昨年から大規模層の割合がやや減少している。

(5) 子牛市場出荷頭数・平均価格の推移

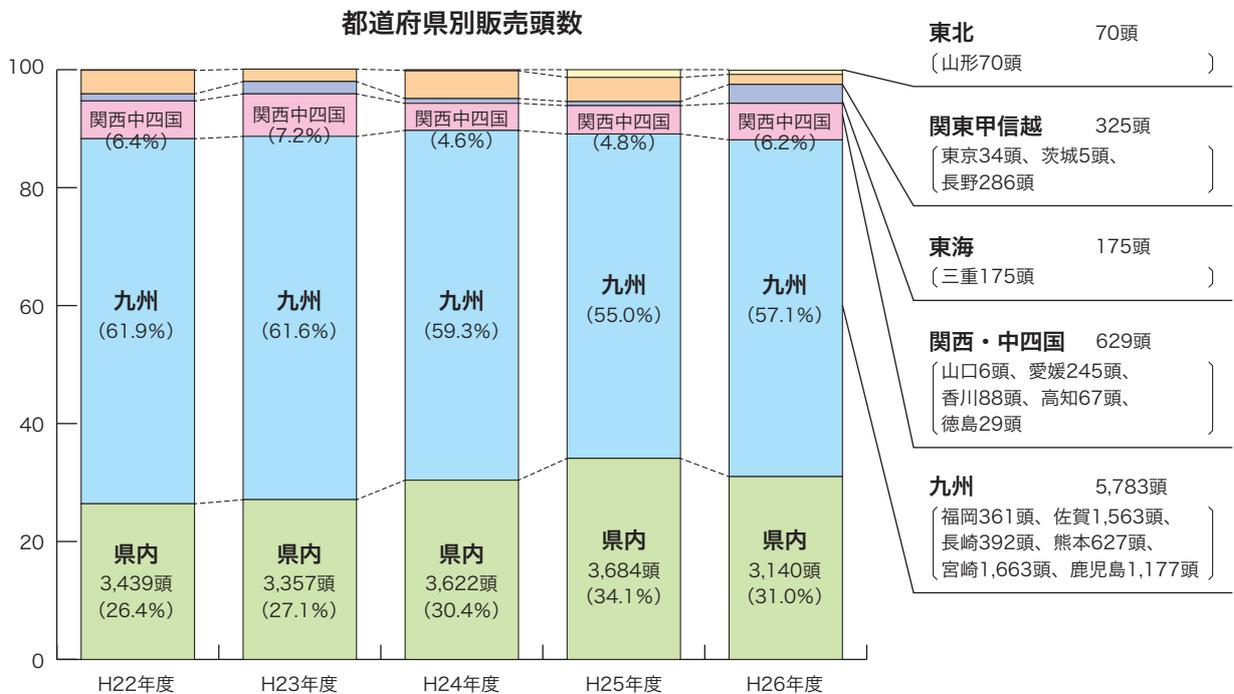


(注1) グラフ内「去勢」頭数には「雄」頭数を含まず、()内出荷合計頭数には「雄」頭数を含むため、合計頭数は一致しない
 (注2) 「大分の畜産 2011」以前は「入場頭数」を、「大分の畜産 2012」以降は「成立頭数」を「出荷頭数」として計上
 (注3) 再上場による頭数等は含まない

資料：全農大分県本部

H26年度の県内出荷頭数は10,127頭で、前年に比べ657頭(6.1%)少なく、出荷頭数は毎年減少している。
 H26年度の市場平均価格は、雌・去勢ともに大幅に上昇している。
 去勢では全国平均を25千円(4.2%)上回り、雌では全国平均を13千円(2.4%)下回っている。

(6) 肉用子牛(黒毛和種)の流通

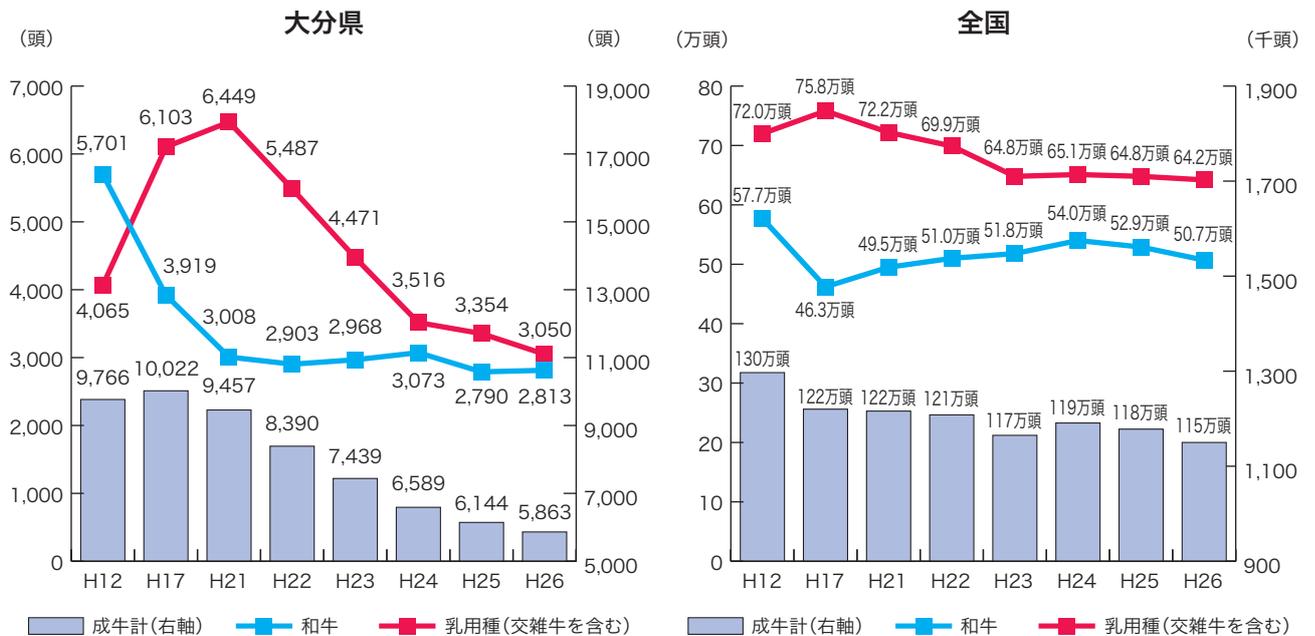


資料：全農大分県本部

(注) 再上場による頭数等を含むため、(5)に示す出荷頭数とは必ずしも一致しない

H26年度の県内販売頭数は3,140頭で、総出荷頭数10,122頭の31.0%であった。
 地域別では九州向けが5,783頭(57.1%)と最も多く、県外販売頭数のうち82.8%を占めている。
 県別では、宮崎県が1,663頭(16.4%)と最も多く、次いで佐賀県1,563頭(15.4%)、鹿児島県1,177頭(11.6%)であった。

(7) 肉用牛県内と畜頭数の推移



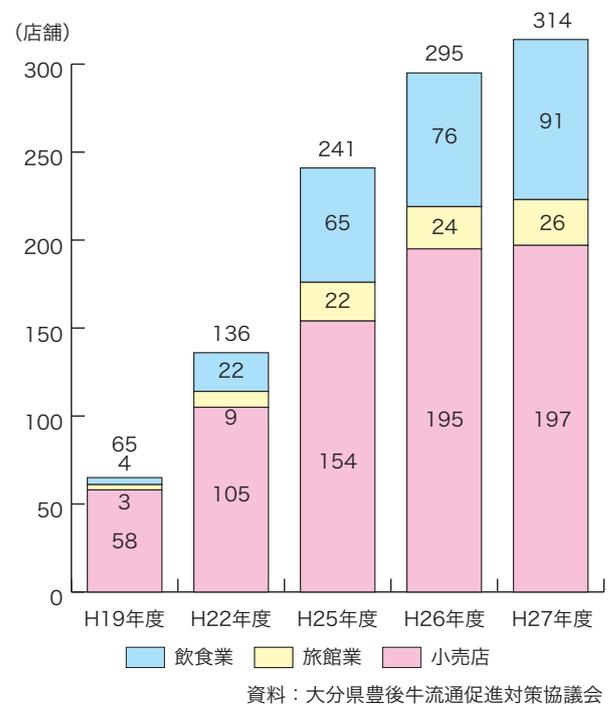
H26年の成牛と畜頭数は5,863頭で前年比4.6%減少し、特に乳用種（交雑牛を含む）の減少が大きい。和牛はH22年以降はやや回復傾向にあり、H26年は2,813頭と前年比23頭（0.8%）増加した。乳用種（交雑牛を含む）は3,050頭（うち乳牛1,753頭）で、前年の3,354頭に比べ、304頭（9.1%）減少した。

(8) 県産肉用牛（黒毛和種肥育牛）の流通



H26年度の黒毛和種肥育牛の出荷頭数（系統出荷）は3,699頭で、前年比113.9%と増加した。都道府県別仕向け頭数は、大阪が最も多く、県外出荷の45.4%を占める。近年は、福岡向けが増加しつつあり、H26年度は県外出荷の35.6%となっている。

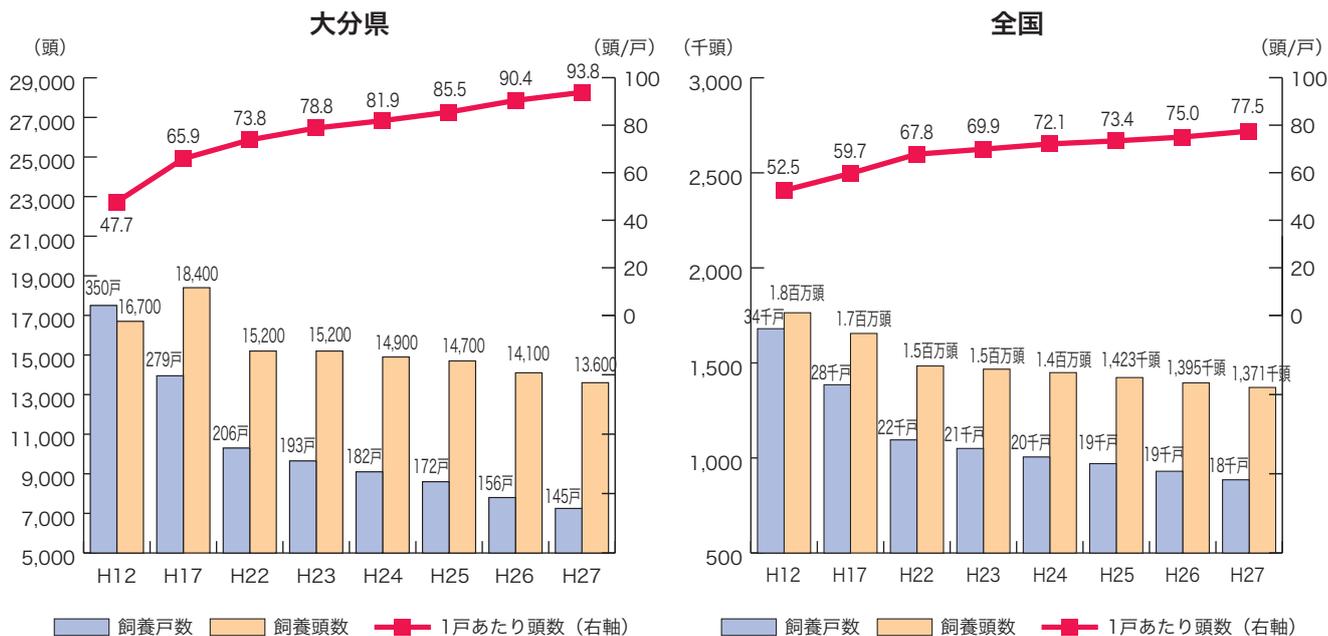
(9) おおいた豊後牛取扱認定店舗数推移



認定店制度はH19年度に始まり、認定店舗数は順調に増え、H27年度には314店舗になった。業種別では小売店が最も多く、62.5%を占めている。H26年度からH27年度にかけて最も伸び率が高いのは飲食業で16店舗(21.1%)増加した。

2. 乳用牛

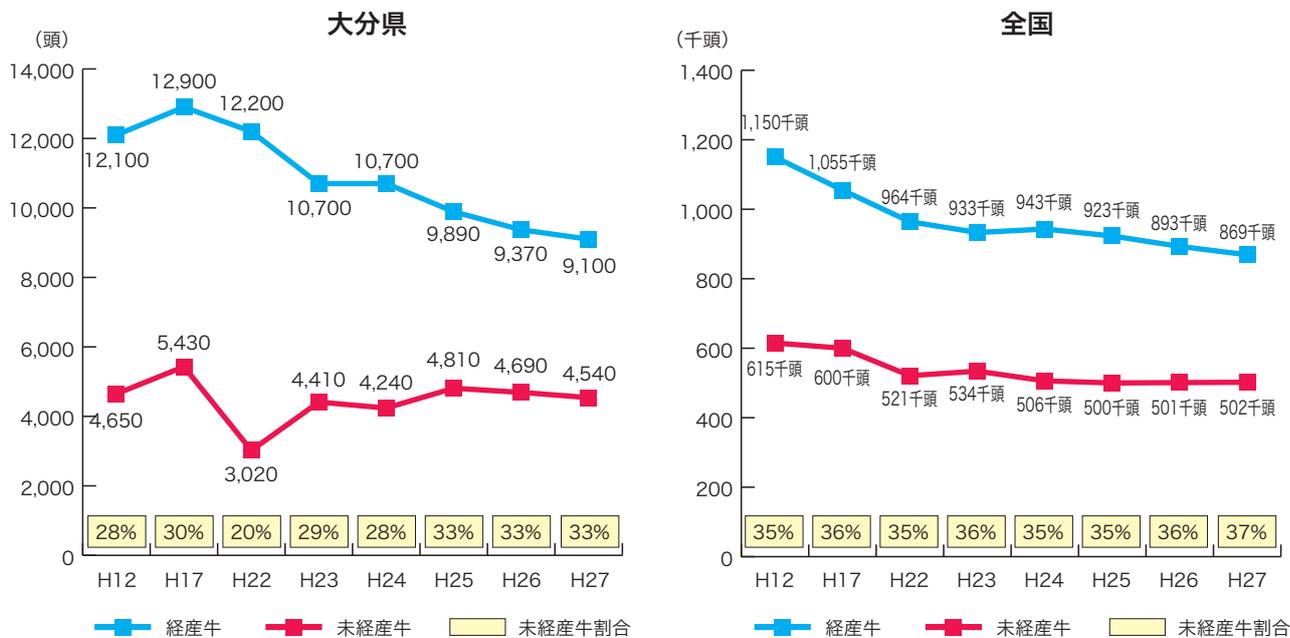
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H27年2月1日現在の飼養戸数は145戸で前年に比べ11戸減少した。飼養頭数は前年に比べ500頭（3.5%）減少し13,600頭となっている。H17年には18,400頭であったが、生産調整等の影響によりH27年にはH17年比で73.9%まで減少している。1戸あたり飼養頭数は順調に増加しており、H17年以降全国平均を上回っている。

(2) 用途別頭数の推移

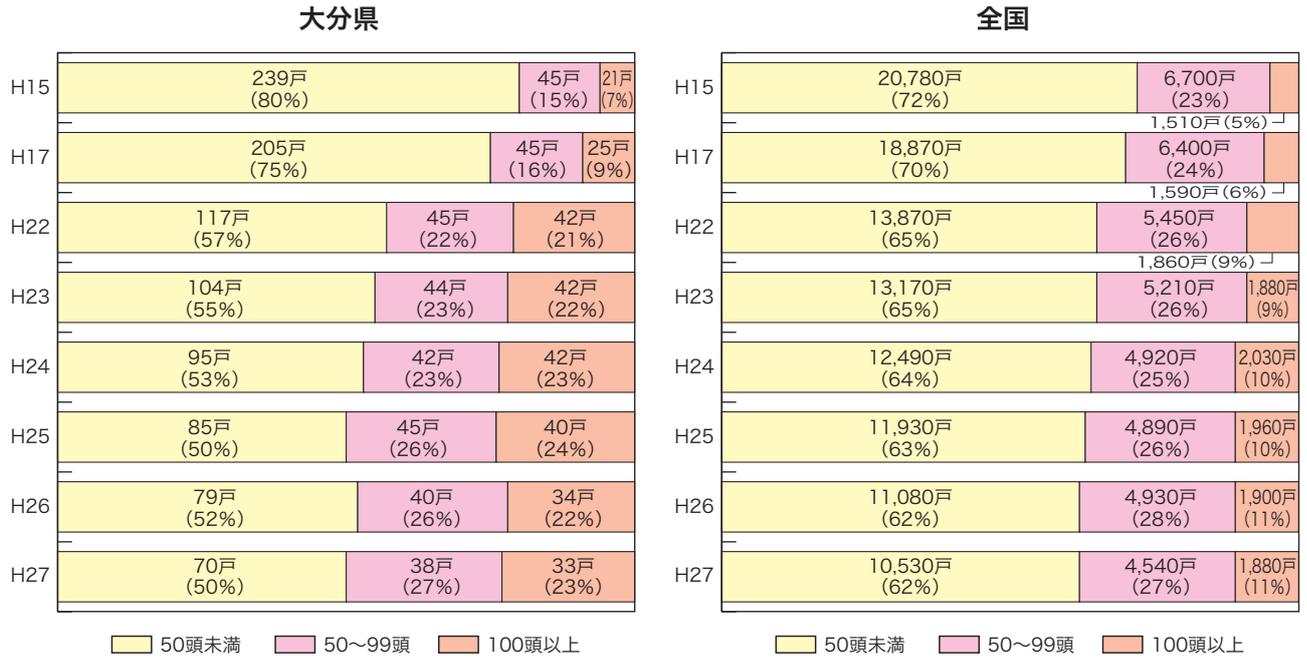


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 搾乳牛：経産牛のうち、搾乳中の牛のこと。
 (注2) 乾乳牛：経産牛のうち、搾乳していない牛のこと。分娩前乾乳と空胎乾乳がある。
 (注3) 未経産牛：出生してから分娩するまでの牛で、生後30ヶ月位までが主体。

大分県は全国に比べ未経産牛割合が低く、H22年には20%まで低下していたが、その後、回復し、H25年以降33%となっている。

(3) 成畜飼養頭数規模別飼養戸数の推移

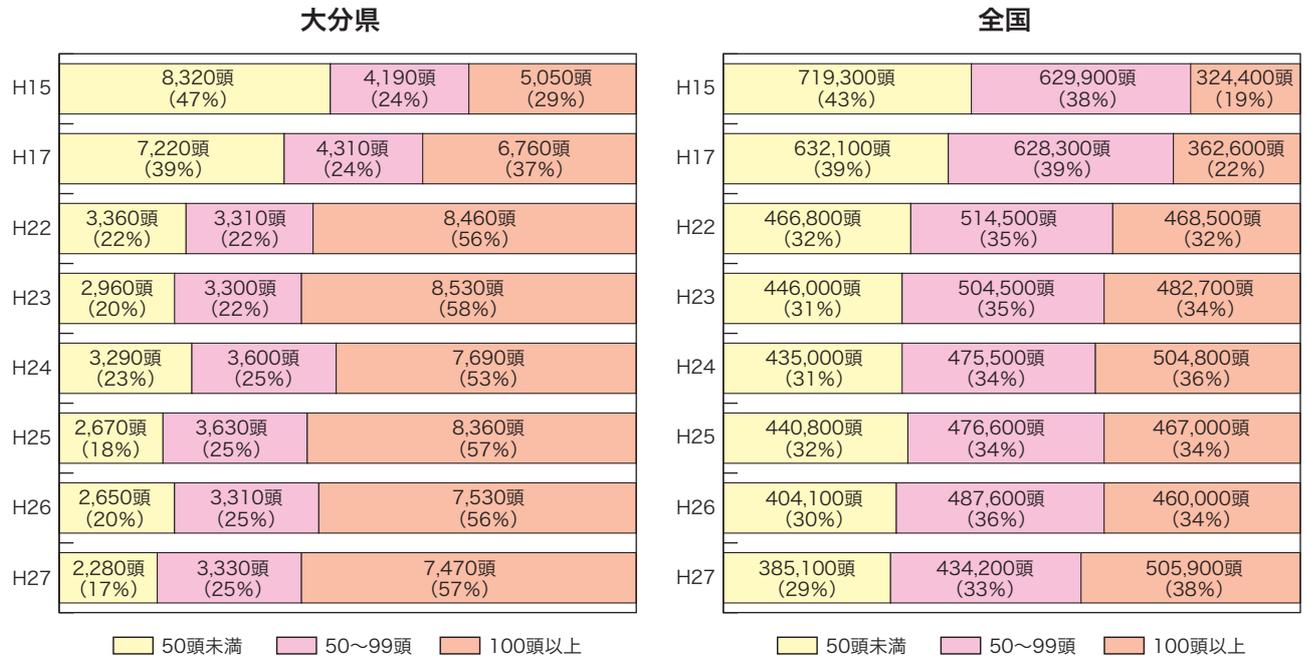


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H27年の100頭以上の戸数割合は23%であり、全国の同割合11%を大きく上回っている。

(4) 成畜飼養頭数規模別飼養頭数の推移



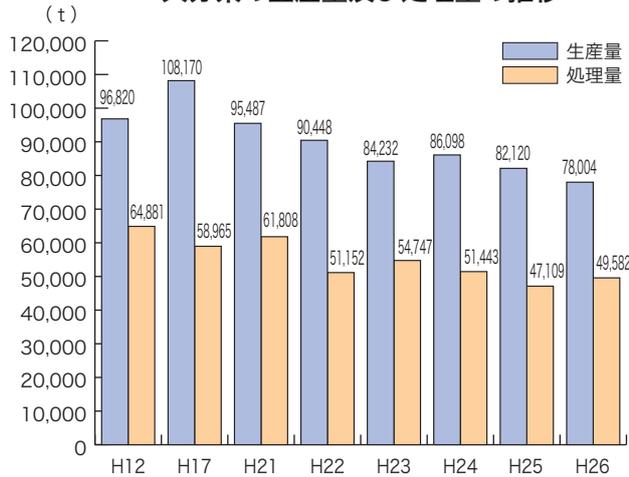
資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

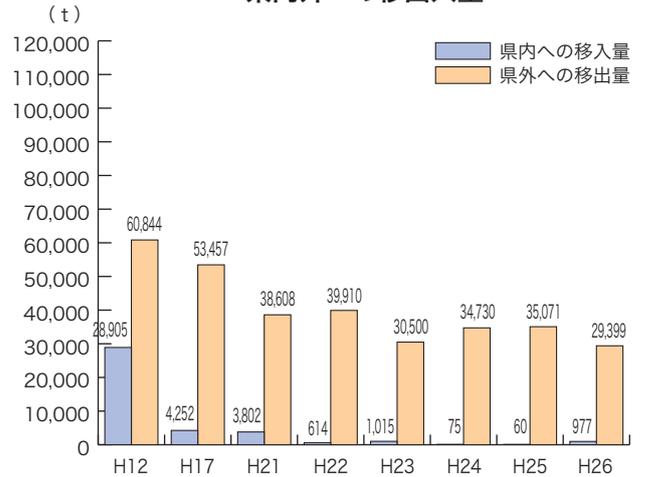
H27年の100頭以上の飼養頭数は、7,470頭で前年に比べ60頭(0.8%)減少した。
 全国では505,900頭と、前年に比べ45,900頭(10.0%)増加し、割合も前年の34%から38%へと増加している。

(5) 生乳生産量・処理量の推移

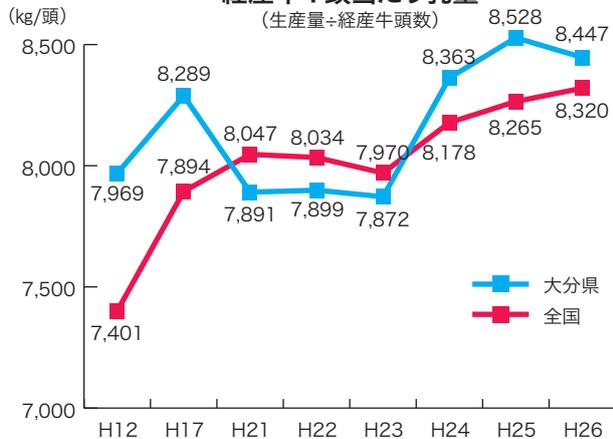
大分県の生産量及び処理量の推移



県内外への移出入量



経産牛1頭当たり乳量



①生産量及び処理量

生産調整開始後、生産量は減少しており、H26年は前年比4,116t (5.0%)の減少となっている。

②県内外への移出入量

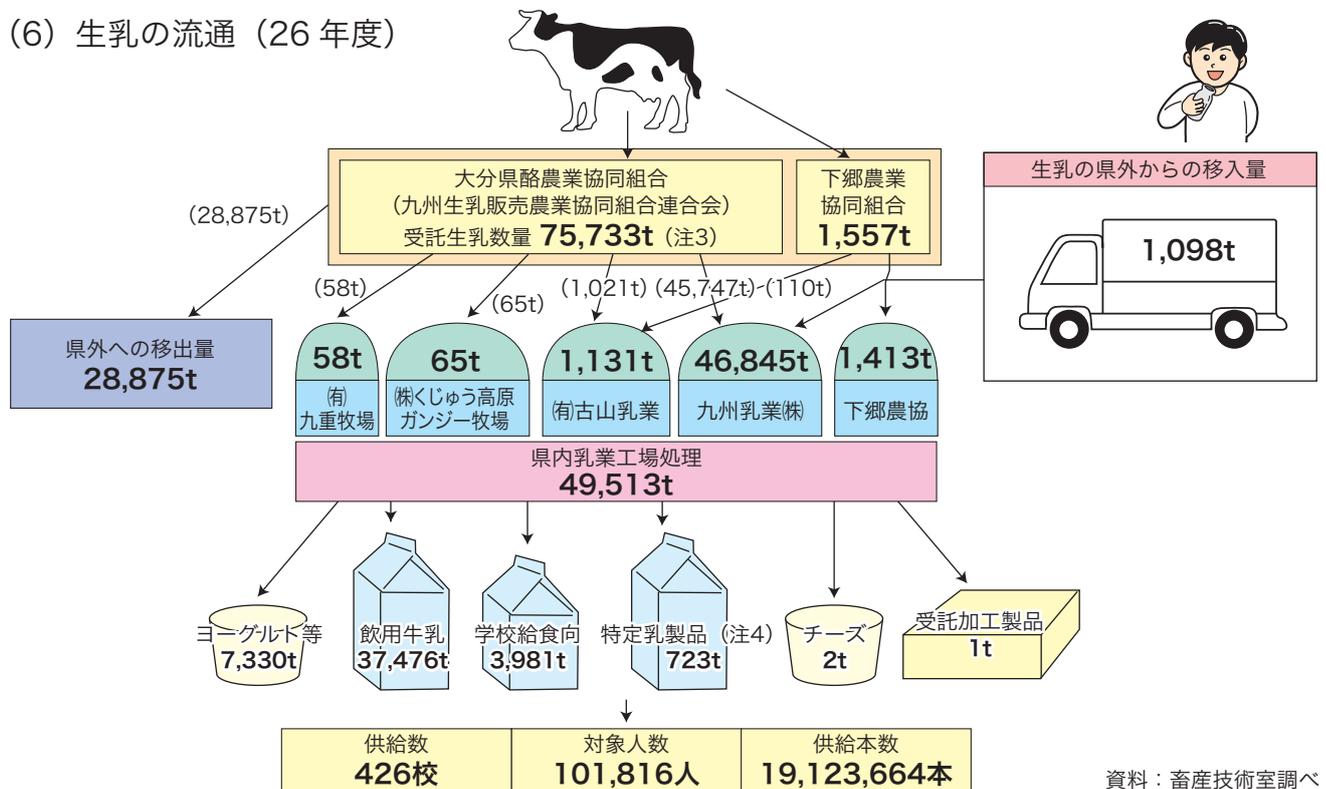
大分県は移入量に比べ移出量の多い輸出県であり、減少傾向であった移出量もH23年以降、増加に転じていたが、H26は減少に転じている。

③経産牛1頭あたり乳量

大分県は生産調整開始後、飼養頭数と乳量率とのバランスが崩れ、全国平均を下回っていたが、H24年以降は回復し、全国平均を上回っている。

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」より

(6) 生乳の流通 (26年度)



資料：畜産技術室調べ

(注1) 生乳生産量：初乳を除く生乳（搾乳したままの乳用牛の乳）の総量であり、乳製品工場、牛乳処理場に出荷したもののほか、生産者の自家飲用、子牛ほ乳用等を含めたもの。

(注2) 生乳処理量：生乳を県内で乳製品向け、飲用牛乳向け、その他向け（自家飲料、子牛のほ乳用）に処理したものの量。

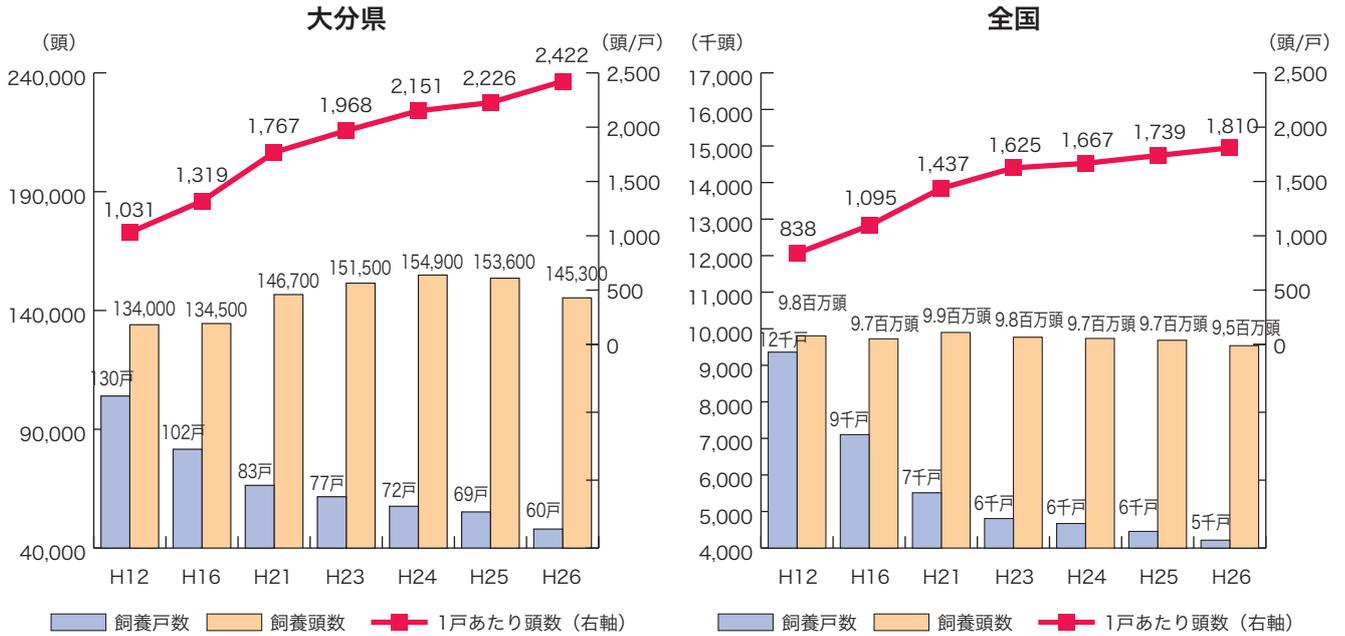
(注3) 受託生乳数量：酪農家が県酪協に委託して、九州生乳販売農業協同組合連合会に出荷した量。

(注4) 特定乳製品：全粉乳、脱脂粉乳、加糖粉乳、全脂加糖練乳、脱脂加糖練乳、全脂無糖練乳、バター及び子牛用の脱脂乳をいう。

(注5) 当該データはH26年度数値であり、農林水産省「牛乳乳製品統計」はH26年度数値であるため、両者は必ずしも一致しない。

3. 豚

(1) 飼養戸数・頭数の推移

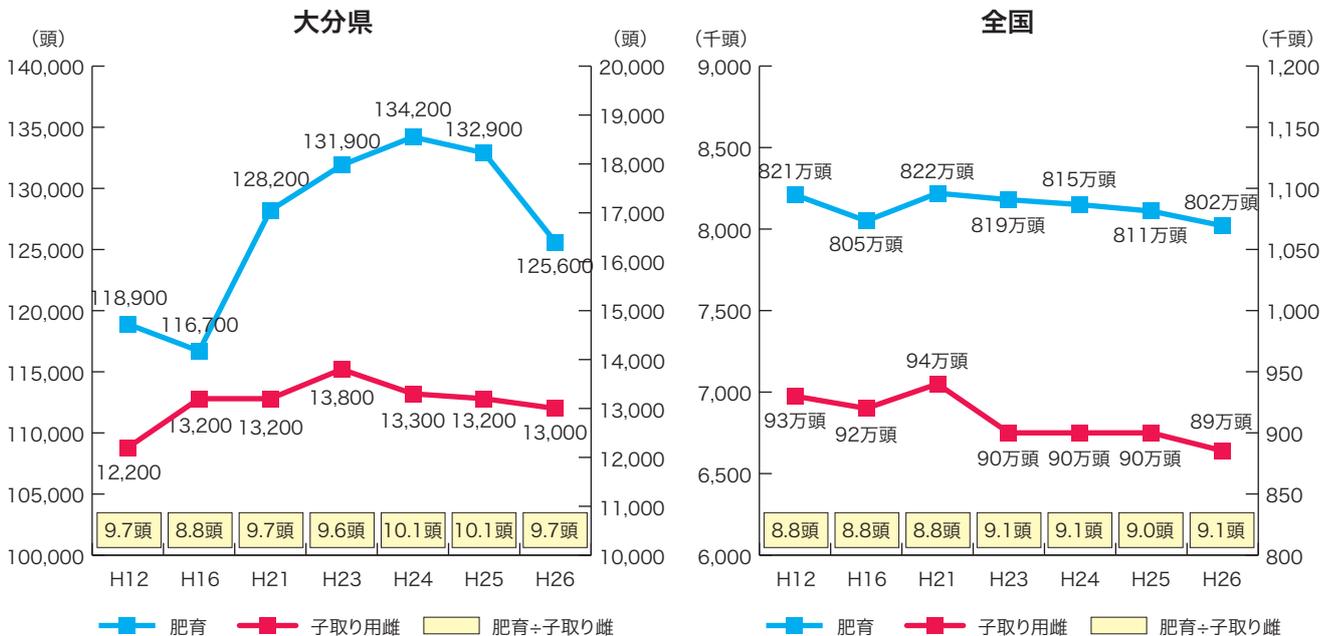


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

H26年の飼養戸数は60戸で前年に比べ9戸（13%）減少した。飼養頭数は145,300頭と前年比で8,300頭（5.4%）減少した。1戸あたり頭数は全国と比べ規模拡大が進んでおり、H26年は2,422頭と、前年比196頭（8.8%）増加した。

(2) 用途別頭数の推移



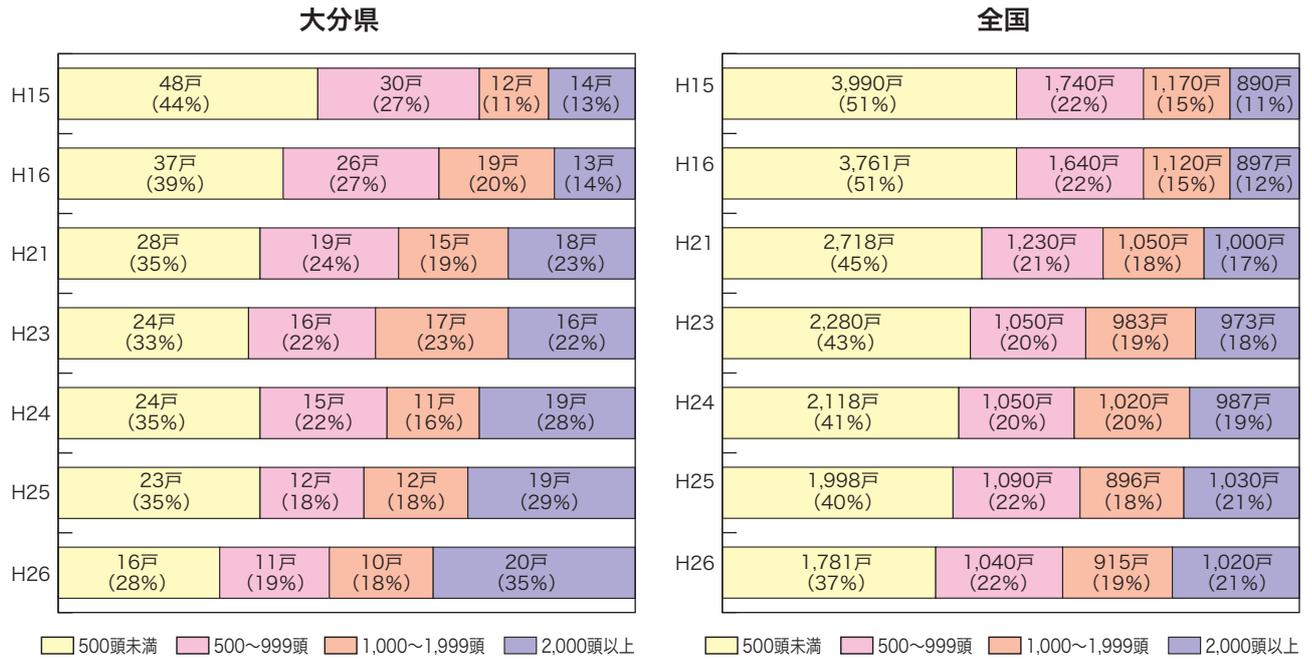
資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 子取り用めす豚とは生後6ヶ月以上で子豚を生産することを目的としているめす豚のこと。実際には過去に種付けしたことのある豚及び近い将来種付けすることが確定している豚のこと。

子取り用めす豚は13,000頭で前年に比べ微減であったが、1戸あたりの飼養頭数は260頭で前年に比べ10.1%増加した。肥育豚は125,600頭で前年比5.5%減少した。肥育豚頭数を子取り用めす豚頭数で除した値は全国平均を上回っている。

(3) 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

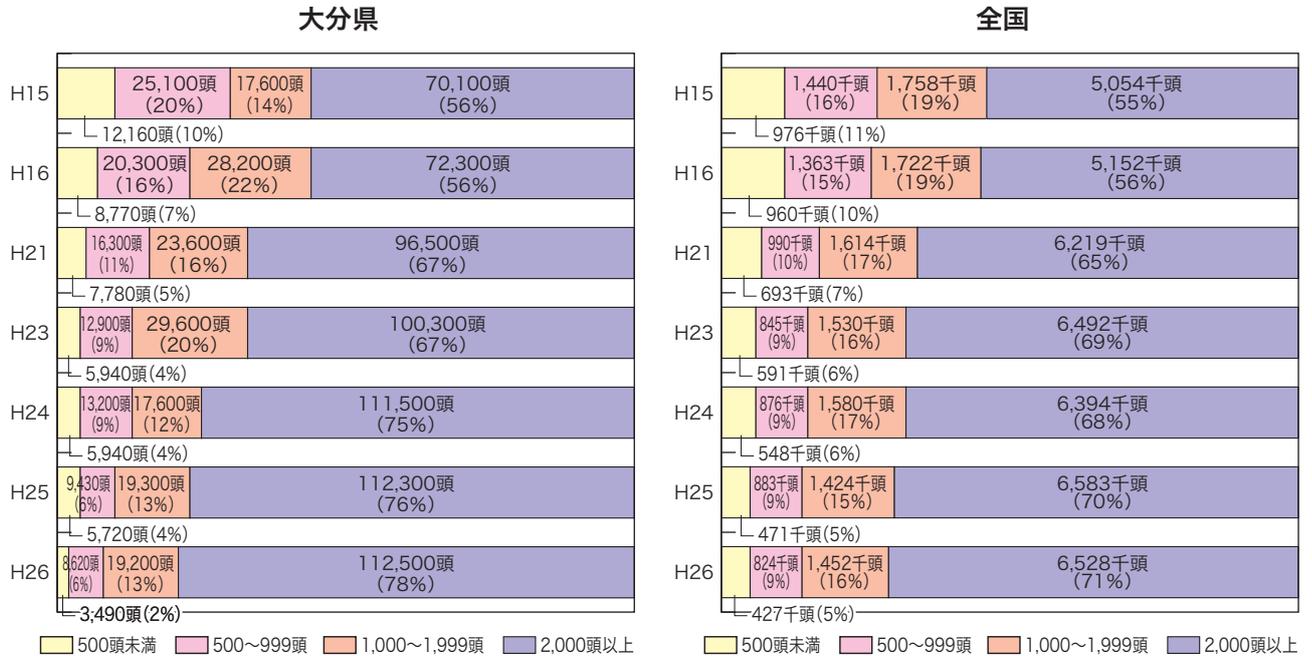
(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 肥育舎：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

2,000頭以上の農家戸数割合は、H15年の13%からH26年は35%まで増加し、全国の21%より高く、大規模農家の割合が高い。

(4) 肥育豚頭数規模別飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

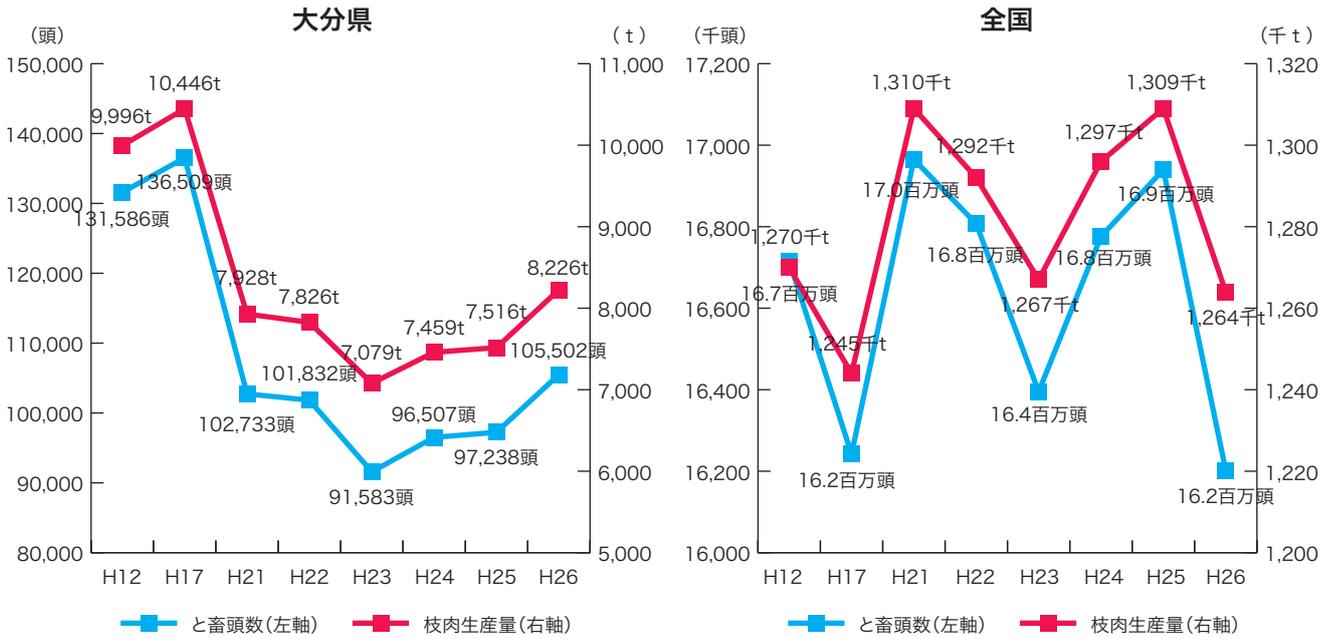
(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 肥育舎：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

2,000頭以上の農家の飼養頭数割合は、H15年の56%からH25年には78%まで大幅に増加し、全国の71%より高く、規模拡大が進んでいる。

(5) 肉豚のと畜及び枝肉の生産状況



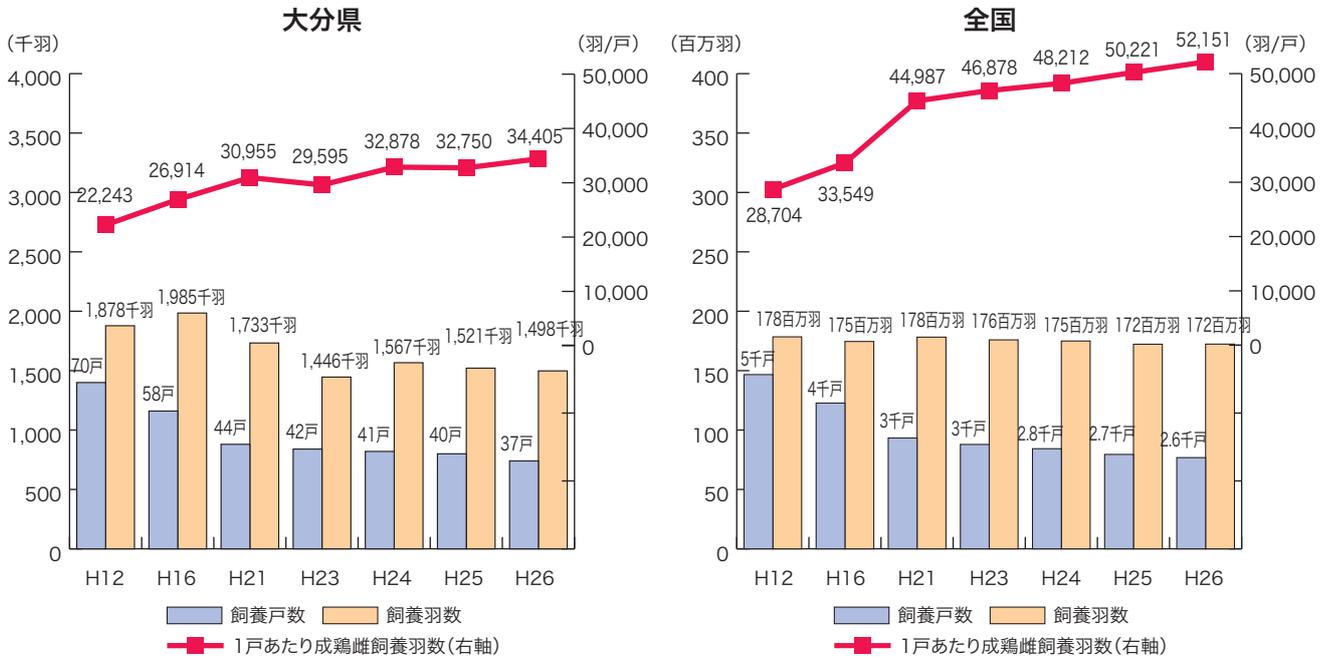
資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。

H26年の県内のと畜頭数は105,502頭で、前年に比べ8,264頭(8.5%)増加した。一方で、H26年の県内肥育頭数は125,600頭と前年に比べ7,300頭(5.5%)減少している。

4. 採卵鶏

(1) 飼養戸数・羽数の推移



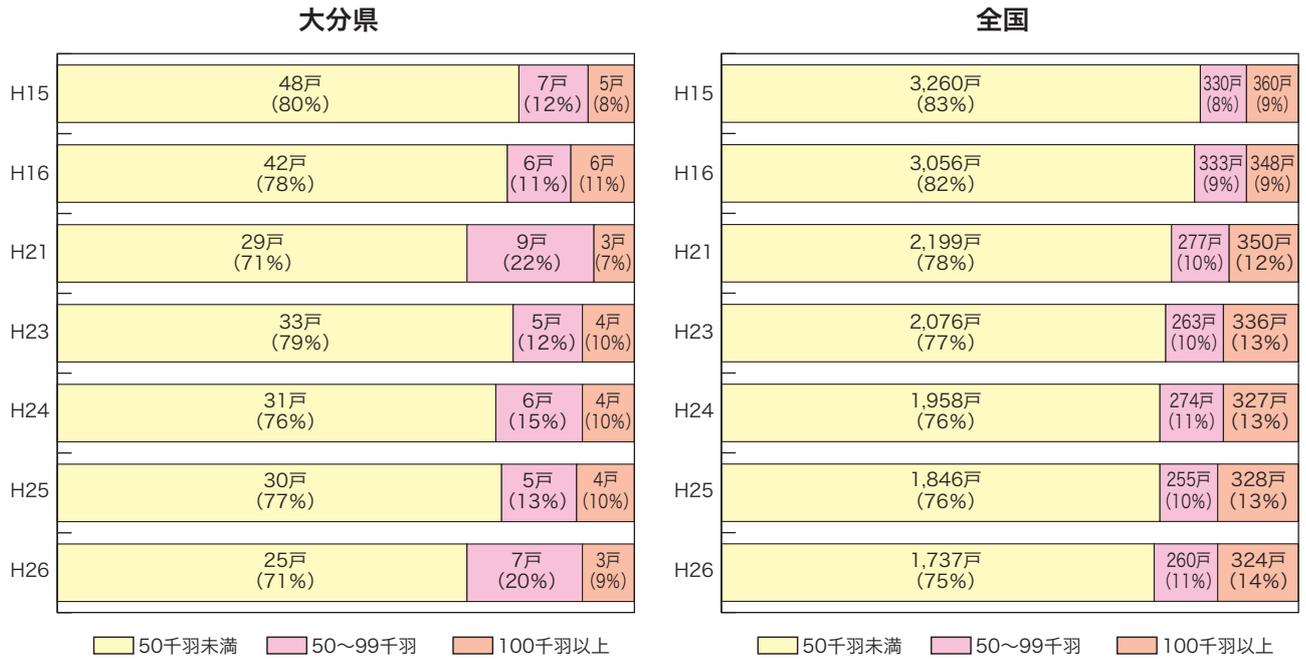
資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。

(注2) 飼養戸数・羽数は種鶏のみの飼養戸数、種鶏の飼養羽数を除き、成鶏めす羽数は1,000羽未満の飼養戸数・羽数を除く。

H26年の飼養戸数は37戸と前年に比べ3戸減少し、飼養羽数は1,498千羽で同23千羽(1.5%)減少している。1戸あたり成鶏めす飼養羽数は、H26年は1,655羽(5.0%)増加し34,405羽となっているが、全国ではH26年には52,151羽と、大分県を大きく上回っている。

(2) 成鶏めす羽数規模別飼養戸数の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

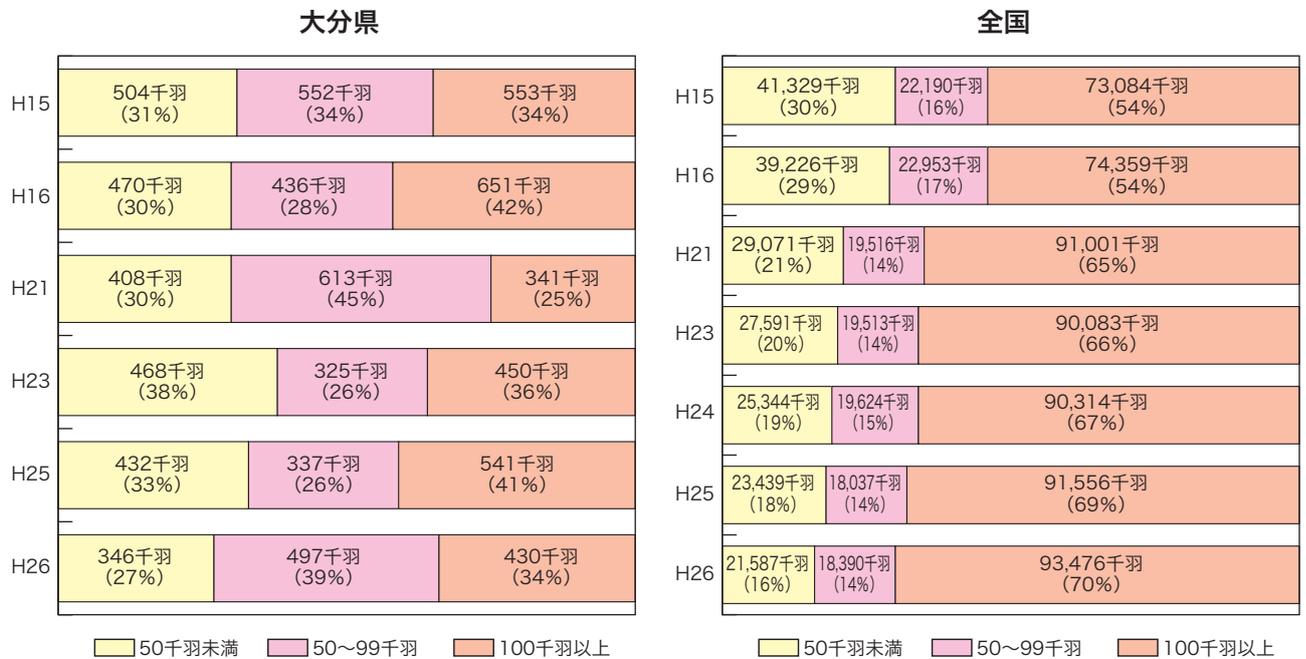
(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。

(注2) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

各階層の飼養戸数割合は年により若干の増減はあるものの、ここ数年大きな変化はない。

(3) 成鶏めす羽数規模別成鶏めす飼養羽数の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) H17年、H22年及びH27年はセンサス実施年のため未公表。

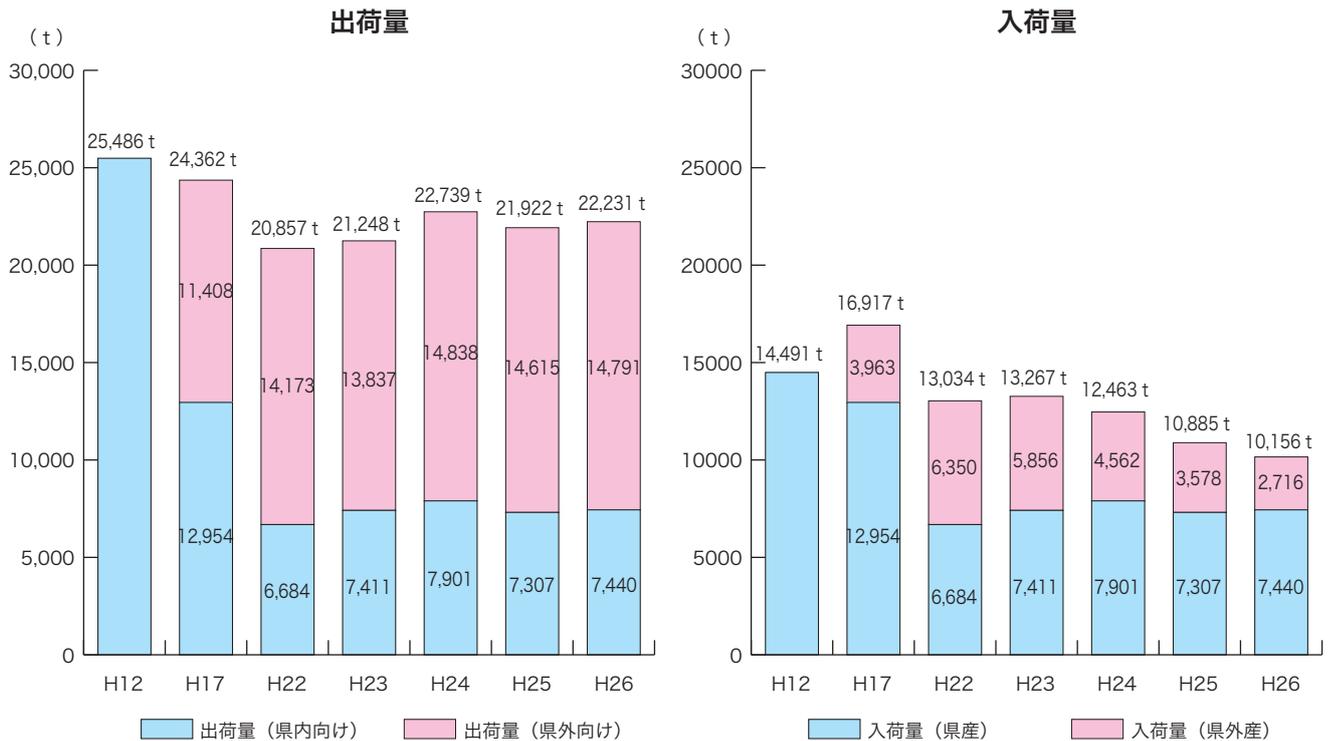
(注2) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。

(注3) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

(注4) H24年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

全国的には緩やかながら規模拡大が進んでいるが、H26年の100千羽以上の農家の羽数割合は34%で、全国（70%）を大きく下回っている。

(4) 鶏卵の流通状況



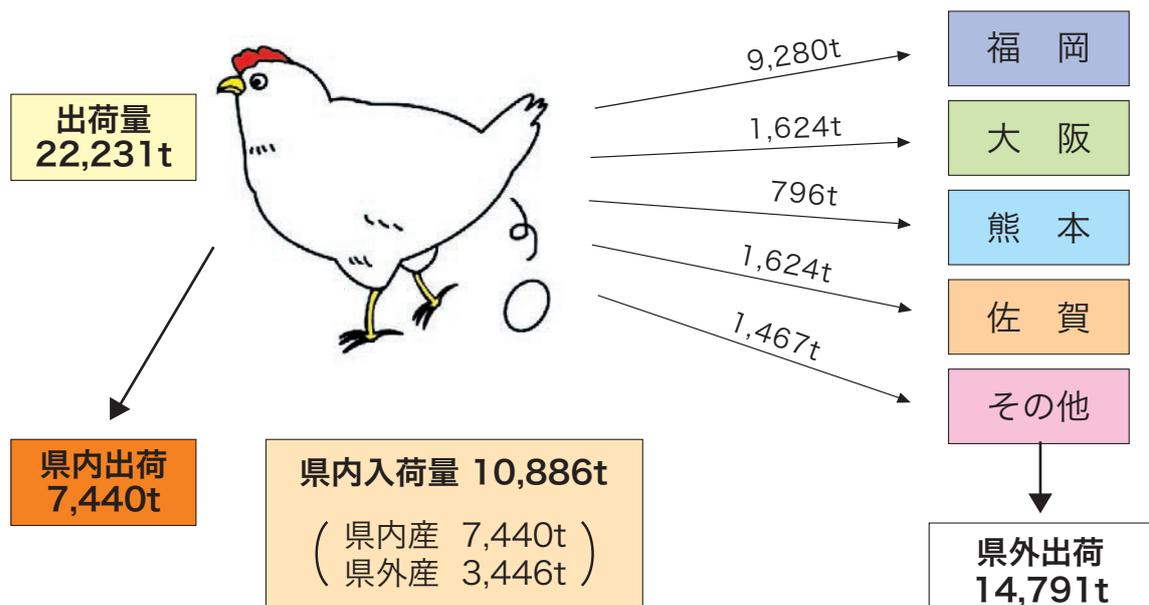
資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) H12年は県内、県外の別が分からないため、出荷量又は入荷量の合計のみを記載

(注2) 鶏卵生産量：一般用食用、加工用、種卵等として生産された鶏の卵をいう。

(注3) 鶏卵出荷量：一般用食品及び加工用として販売した鶏卵の数量をいい、生産者が自家消費した数量及び種卵、その他の数量は出荷量に含まれない。

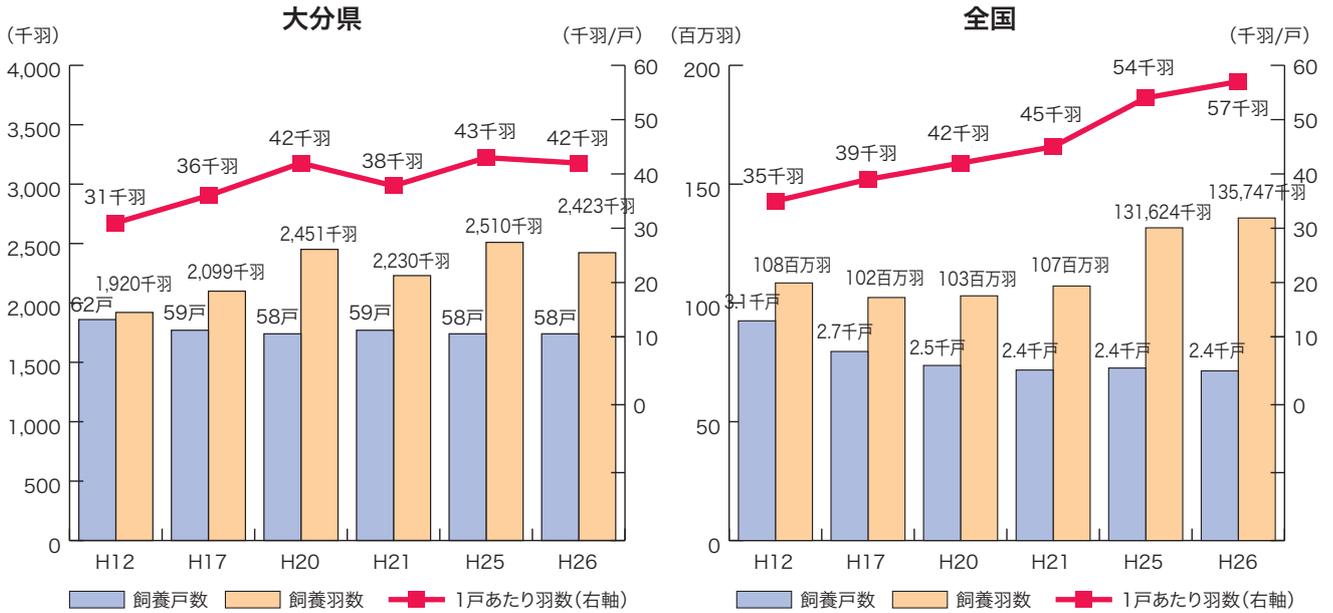
H26年出荷量は前年に比べ309t（1.4%）増加している。
 出荷量のうち過半数が県外向けで、H26年は14,791tと全体の66.5%を占めている。
 入荷量は減少傾向にあり、H26年は前年に比べ729t（6.7%）減少している。
 入荷量に占める県外産の割合は、H26年で26.7%と前年より低下している。



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

5. ブロイラー

(1) 飼養戸数・羽数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

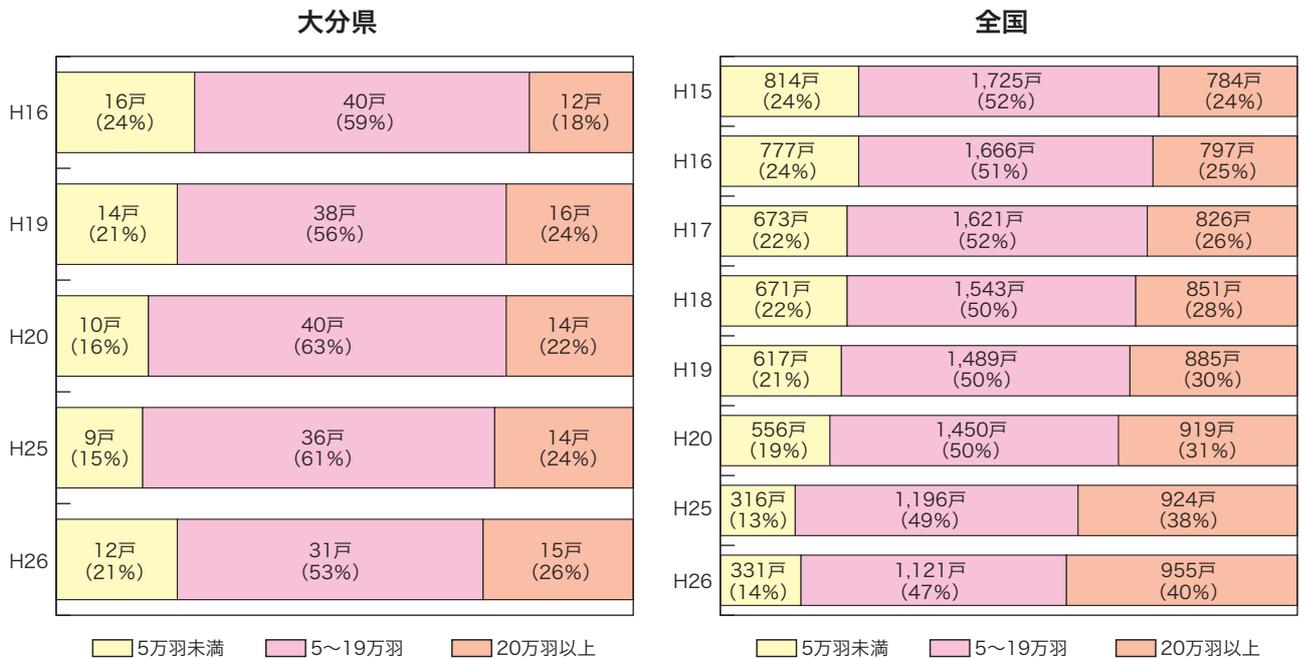
(注1) この統計は、2月1日現在のブロイラー飼養戸数及び飼養頭数を調査したもので、一時的に鶏舎消毒のためオールアウトしていた等により、ブロイラーを飼養していない飼養者は除外したものである。

(注2) H22年からH24年までは調査が行われなかったが、H25年から再開されている。

(注3) H27年はセンサス実施年のため未公表。

飼養戸数は横ばいであったものの、飼養羽数はH26年2,423千羽と前年に比べ87千羽（3.4%）減少し、1戸あたり飼養羽数も1千羽/戸（2.3%）減少している。ただし、全国は前年に比べ飼養羽数（3.1%）、1戸あたり飼養羽数（5.5%）共に増加している。

(2) 出荷羽数規模別出荷戸数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

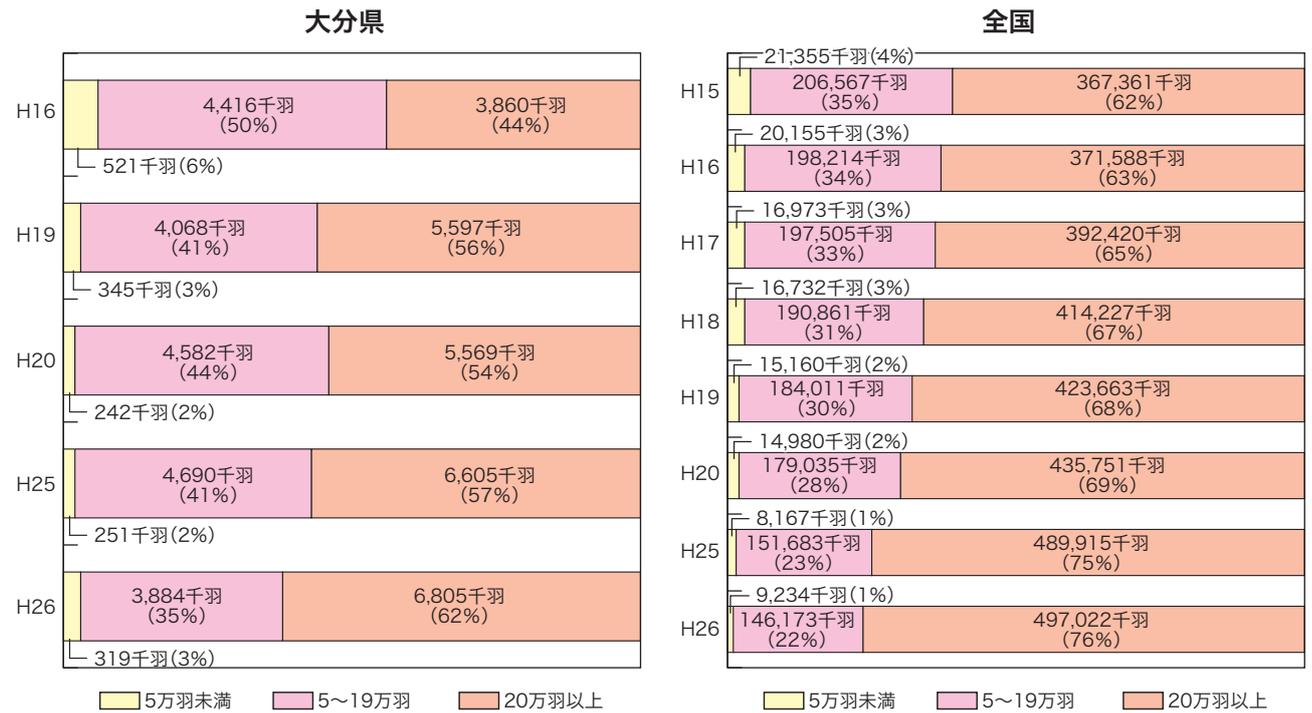
(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

(注2) H21年からH24年は調査が行われなかったが、H25年から再開されている。

(注3) H27年はセンサス実施年のため未公表。

H26年の20万羽以上規模の戸数は15戸と前年に比べ1戸増加している。全国ではH26年に955戸と前年に比べ31戸と大幅に増加しており、規模拡大が進んでいる。

(3) 出荷羽数規模別出荷羽数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。
 (注2) H21年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。
 (注3) H27年はセンサス実施年のため未公表。

H26年の20万羽以上規模農家の飼養羽数は6,805千羽であり、前年に比べ200千羽（3%）増加している。
 全国ではH26年に497,022千羽となり、前年に比べ7,107千羽（1.4%）増加している。



ホテルオークラマカオへ副知事より「おおいた豊後牛」認定証を贈呈



肉用牛ゼミナール「専門技術研修Ⅱ」（別府亀の井ホテル）

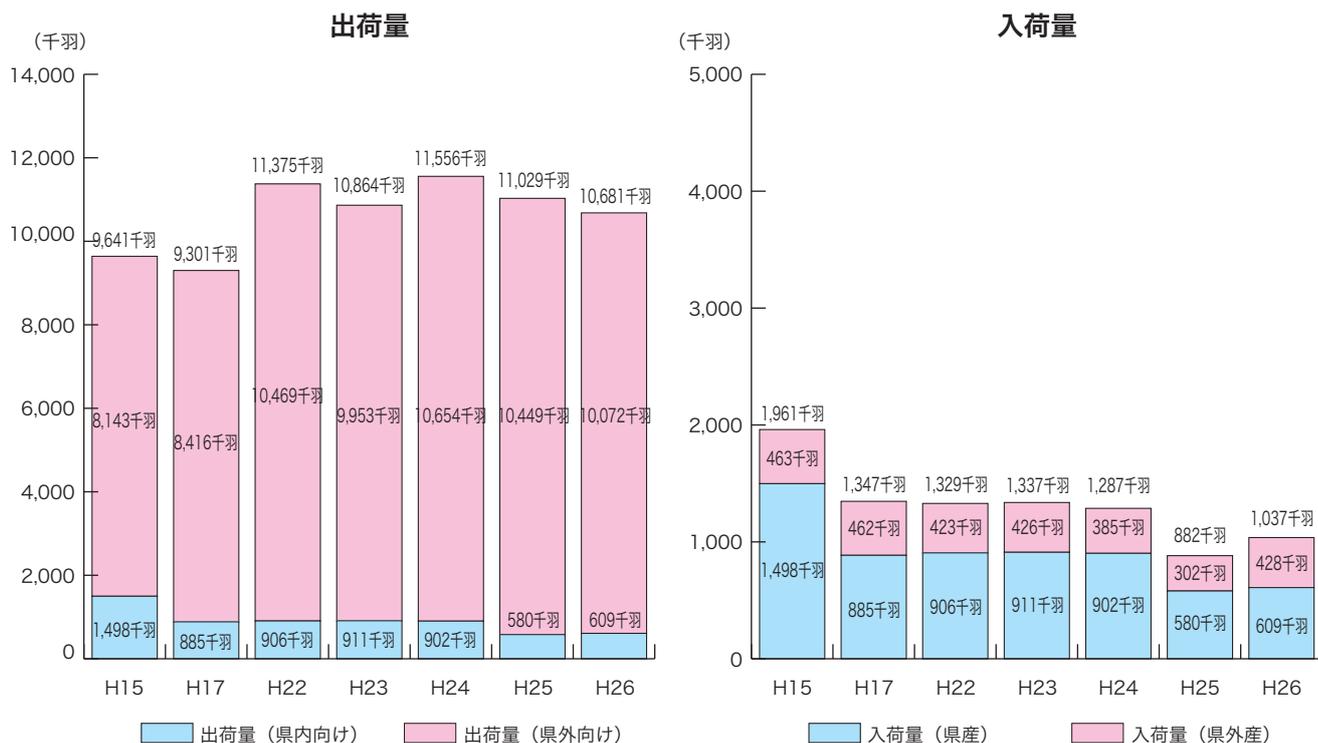


阪急百貨店うめだ本店でおおいたフェアを開催



肉用牛ゼミナール「県外先進地視察研修」（岐阜県）

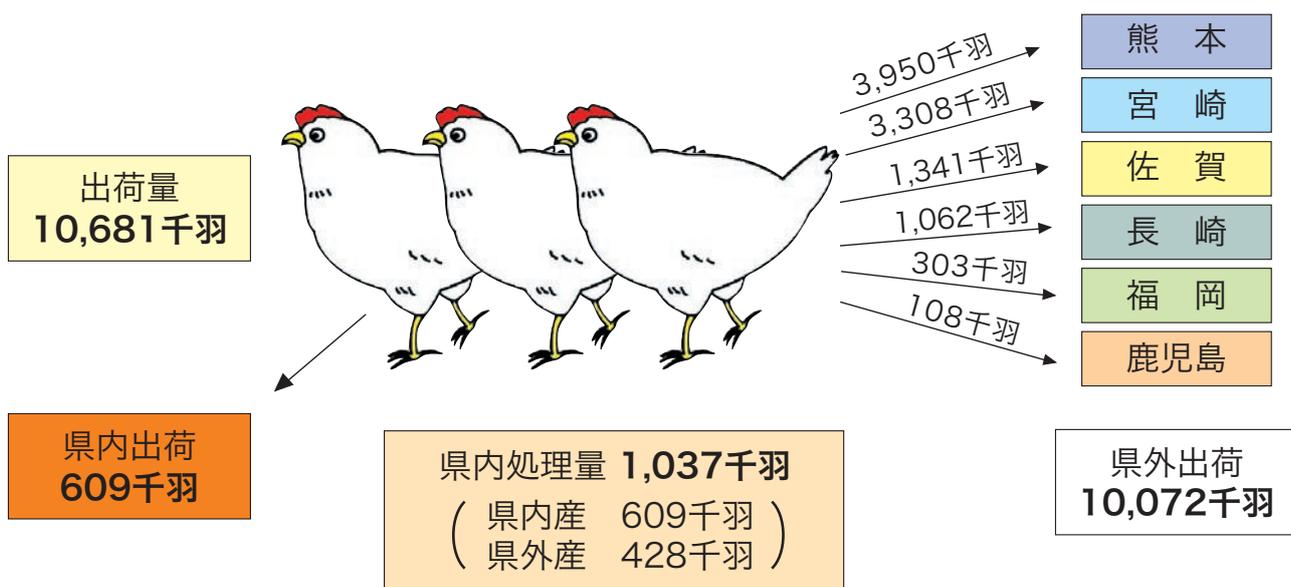
(4) ブロイラーの流通状況



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) 出荷量：飼養から食用に供するために食鳥処理場へ出荷された食鳥（生体）をいい、生産者が自家消費した量は含まれない。
 (注2) 食鳥処理上：食用に供する目的でと鳥処理を行っている事業所（飼養者が自家用としている場合は含まない）のこと。

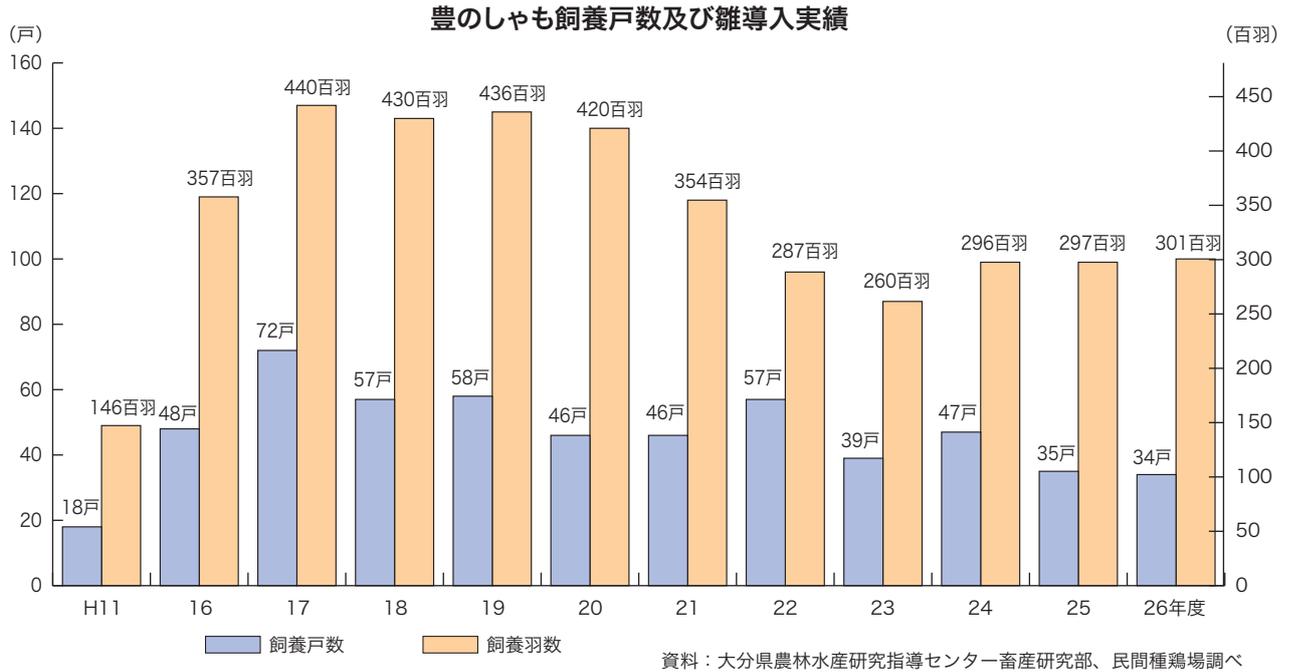
H26年の出荷量は10,681千羽であり、前年に比べ348千羽（3.2%）減少している。
 出荷先は県外が主であり、26年の県外割合は94.3%となっている。
 H26年入荷量は1,037千羽と前年に比べ155千羽（17.6%）増加した。



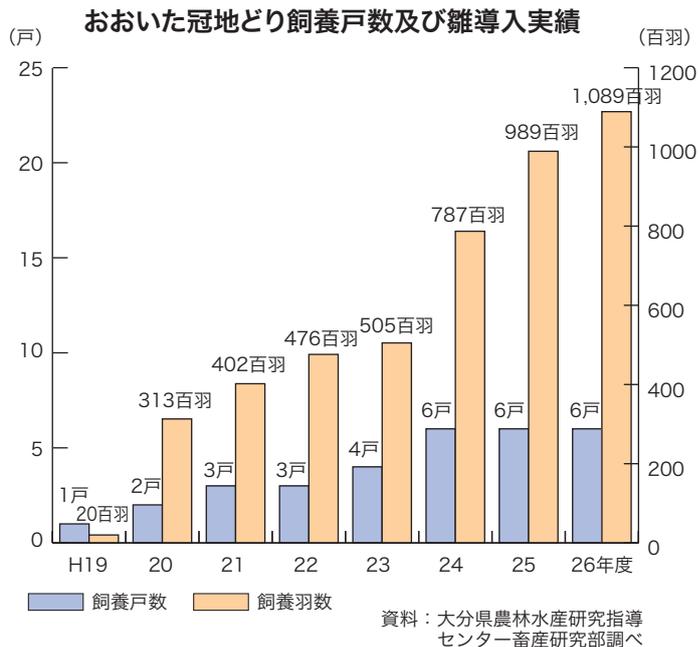
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

6. 地鶏

(1) 豊のしゃも



(2) おおいた冠地どり



(3) 地鶏取扱店

①豊のしゃも取扱店 (H26.8現在)

- ・県内卸小売店 18店 (15店：120%)
- ・県内料理店 44店 (39店：113%)
- ・県外卸小売店 8店 (8店：100%)
- ・県外料理店 24店 (24店：100%)
- 計 94店 (86店：109%)

※()内はH24年8月時点の店舗数及びH24年8月からH26年8月にかけての伸び率(%)
 ※取扱店の調査は隔年で実施するため、H27年度は調査していない。

②おおいた冠地どり取扱店 (H26.10現在)

- ・県内卸小売店 71店 (52店：137%)
- ・県内料理店 288店 (233店：124%)
- ・県外卸小売店 38店 (21店：181%)
- ・県外料理店 56店 (39店：144%)
- ・その他 — (61店：—%)
- 計 453店 (406店：112%)

※()内はH24年8月時点の店舗数及びH24年8月からH26年10月にかけての伸び率(%)
 ※その他は学校給食等。H26年10月は調査していない。
 ※取扱店の調査は隔年で実施するため、H27年度は調査していない。

①豊のしゃも

飼養戸数は34戸で、前年に比べ1戸減少したが、飼養羽数は301百羽と微増した。H17年のピークに比べ、飼養戸数で47.2%、飼養羽数で68.4%まで減少している。

②おおいた冠地どり

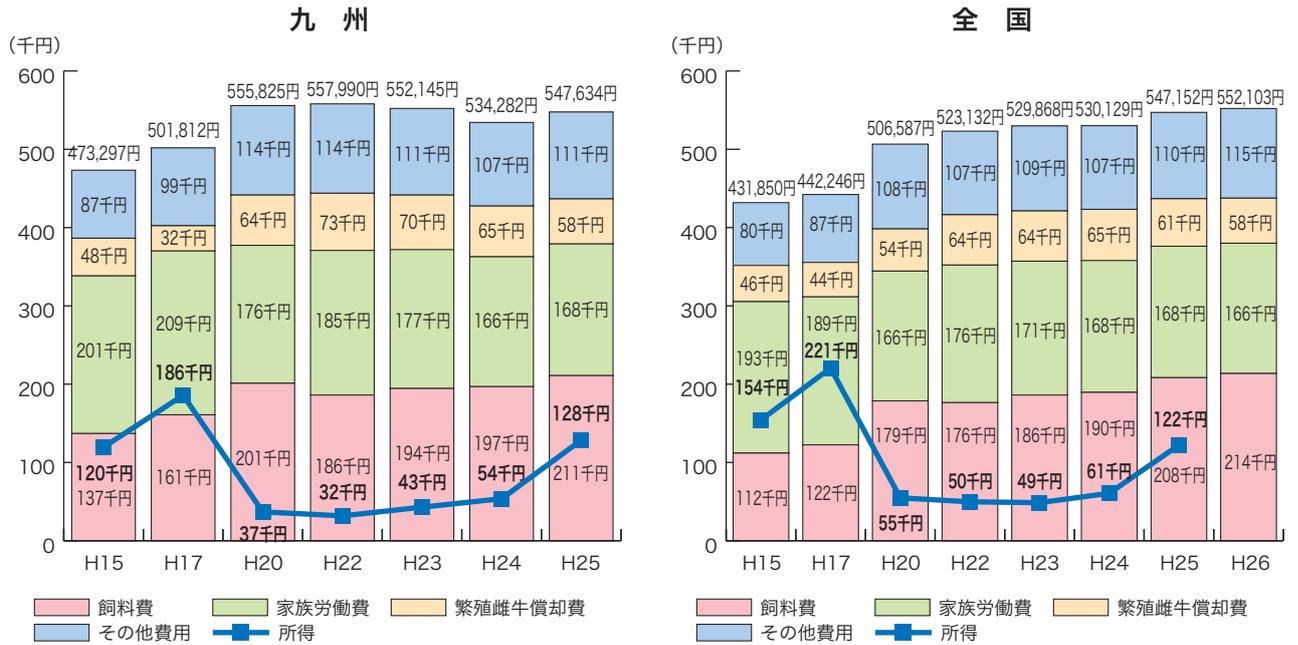
H26年度の飼養羽数は1,089百羽であり、前年に比べ100百羽(10.1%)増加した。飼養戸数は横ばいとなっている。

③地鶏取扱店

豊のしゃも、おおいた冠地どり共に、取扱店はH24年に比べ増加しており、特におおいた冠地どり取扱店の伸びが大きく県内外で450店舗を超えている。

7. 生産費と所得の推移

(1) 子牛の生産費（子牛1頭あたり）と所得（繁殖雌牛1頭あたり）の推移

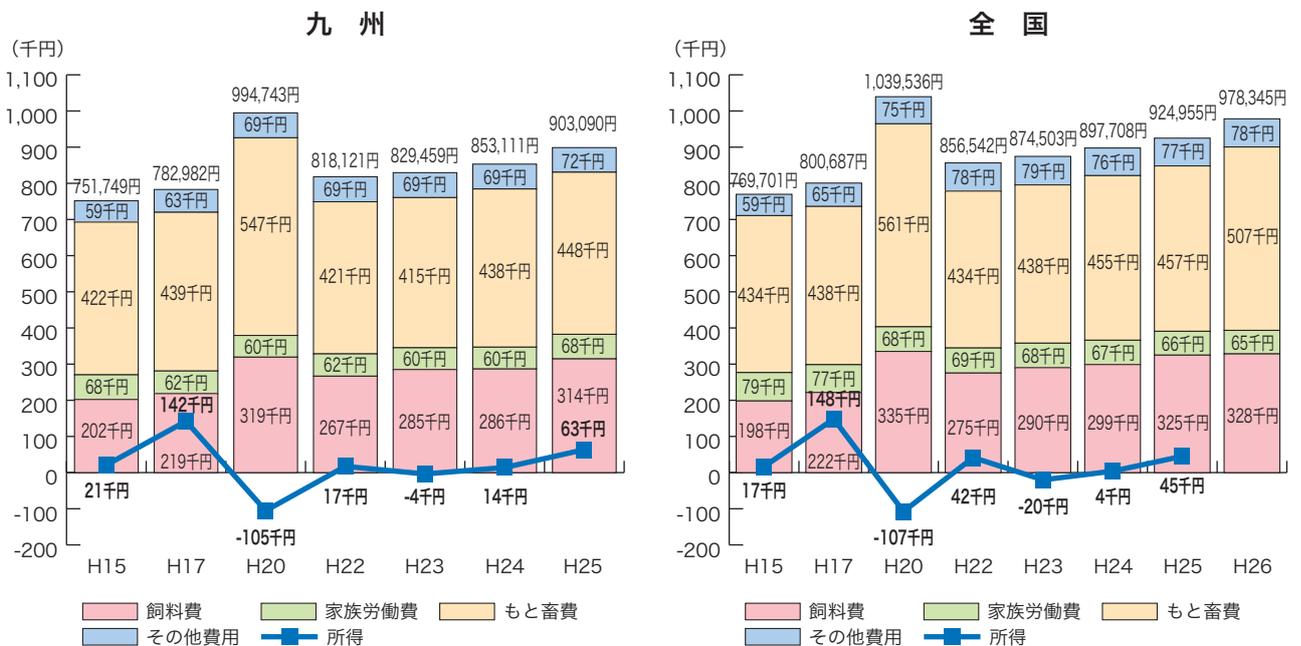


資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2015 作成時点において、H26 年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

H25年の生産費合計は547,634円で、前年に比べ13,352円(2.5%)増加し、所得は128,457円で子牛価格高騰の影響から74,773円(139.3%)増加している。飼料費は高騰が続いており、H25年は210,956円とH15年に比べ74,046円(54.1%)高くなっている。H25年で全国と比較すると、九州は生産費が482円、所得が6,213円高くなっている。

(2) 肥育牛生産費と所得の推移（去勢肥育牛1頭当たり）

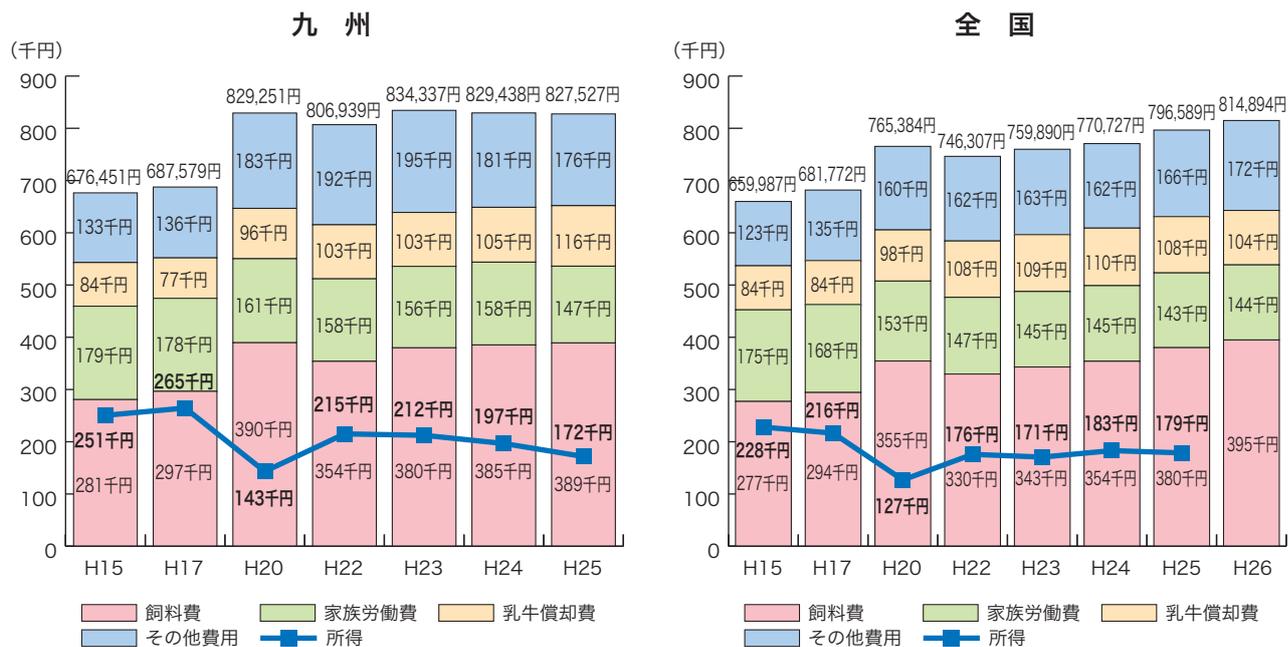


資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2015 作成時点において、H26 年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

H25年の生産費は903,090円であり、前年に比べ49,979円(5.9%)増加し、所得も63,473円と49,437円増加した。生産費の割合が最も高いもと畜費は前年比10,830円(2.5%)増加したが、飼料費は27,945円(9.8%)増加しており、特に飼料費の増加が経営を圧迫している。H25年所得は九州が全国を45,122円上回っている。

(3) 生乳生産費と所得の推移（搾乳牛1頭あたり）

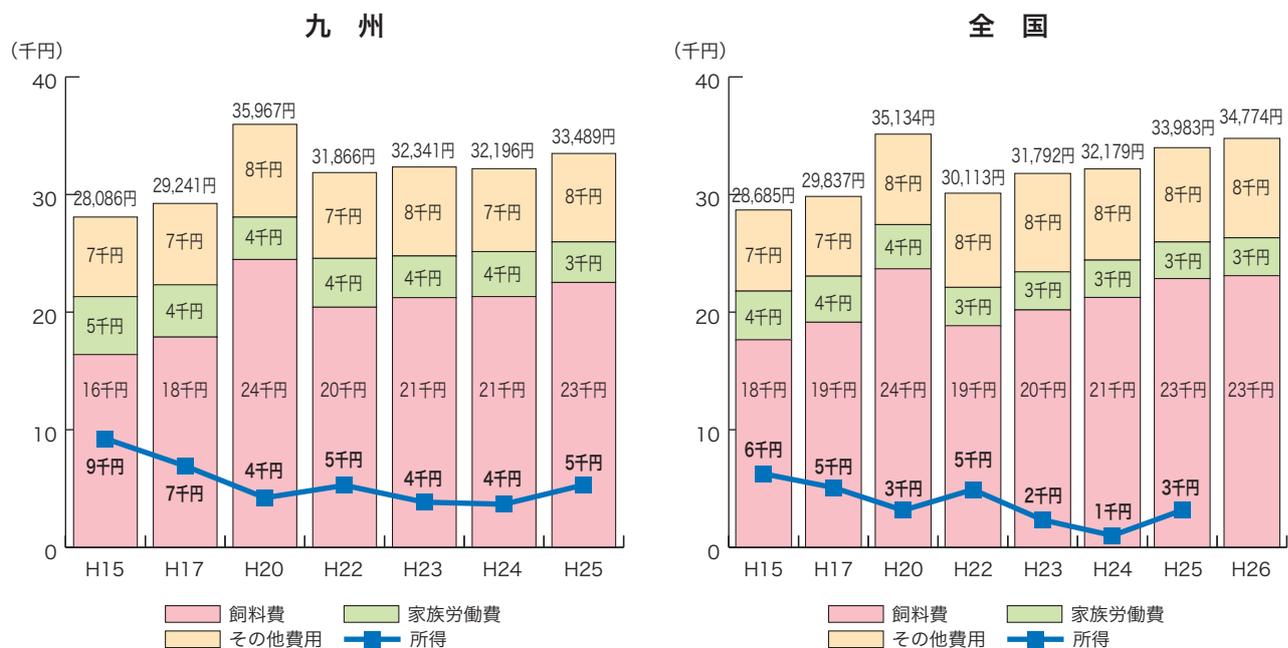


資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2015 作成時点において、H26 年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

H25年の生産費合計は827,527円であり、前年に比べ1,911円（0.2%）減少し、所得は171,708円で24,893円（12.7%）減少している。
九州の生産費は全国に比べ高く推移しているが、H25年の所得は全国を若干下回った。
H26年(全国数値の一部のみ公表)は生産費が814,894円と前年に比べ18,305円（2.3%）増加しており、主に飼料費が14,708円（3.9%）増加した影響によるものである。

(4) 肥育豚生産費と所得の推移（肥育豚1頭あたり）



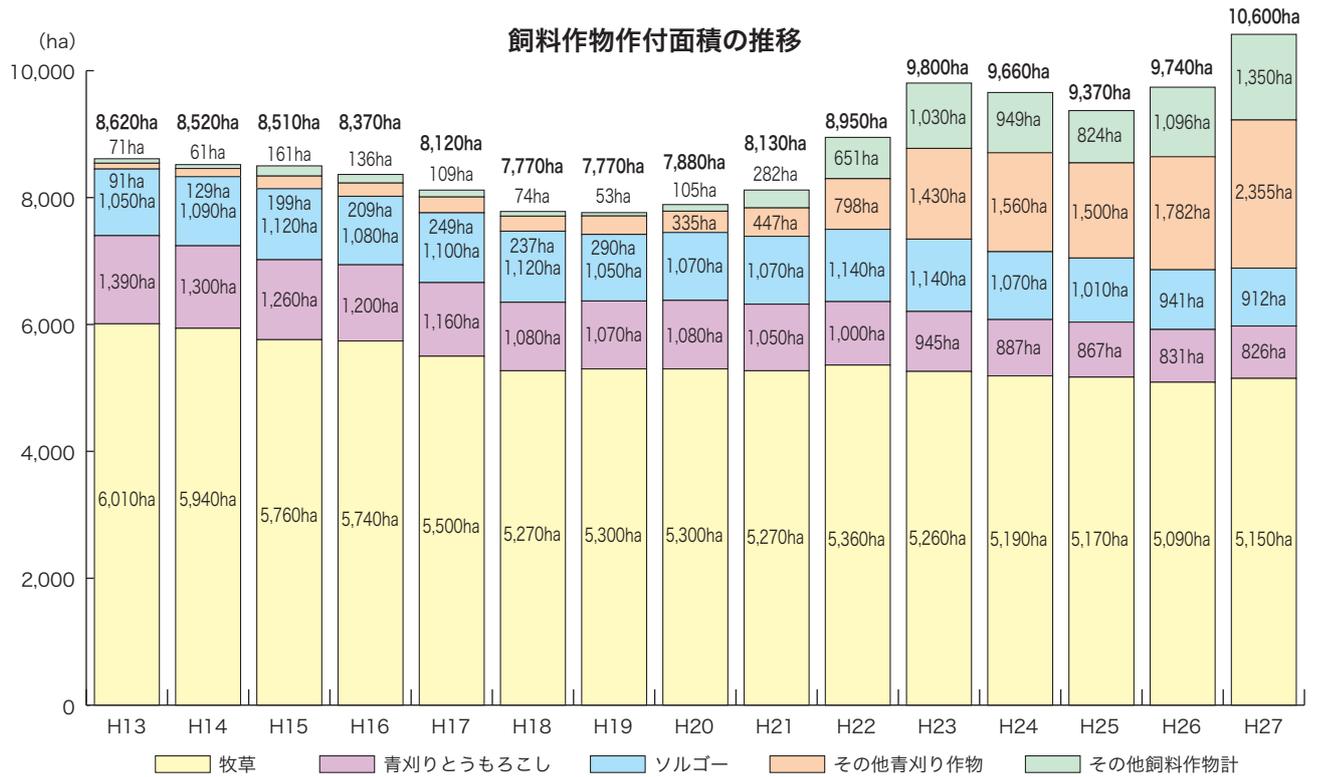
資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2015 作成時点において、H26 年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

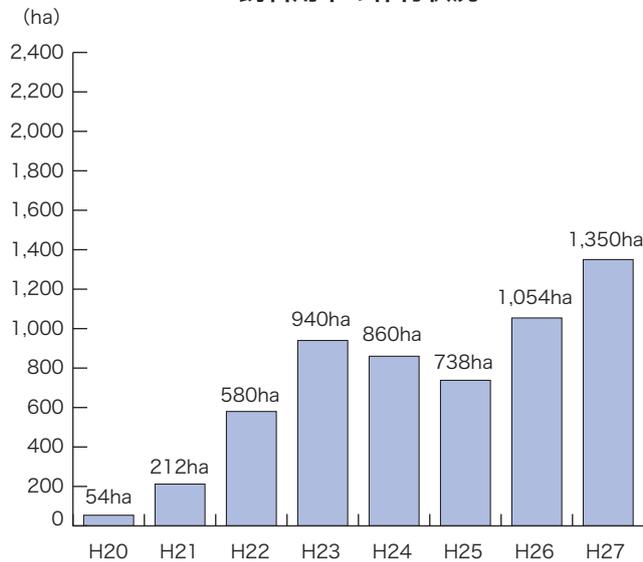
H25年の生産費合計は33,489円、所得は5,309円といずれも増加している。
養豚経営の生産費では飼料費の占める割合が最も高く、H25年で67.3%を占めている。
H26年（全国数値の一部のみ公表）は各費目とも前年からほぼ横ばいとなっている。

Ⅲ 飼料

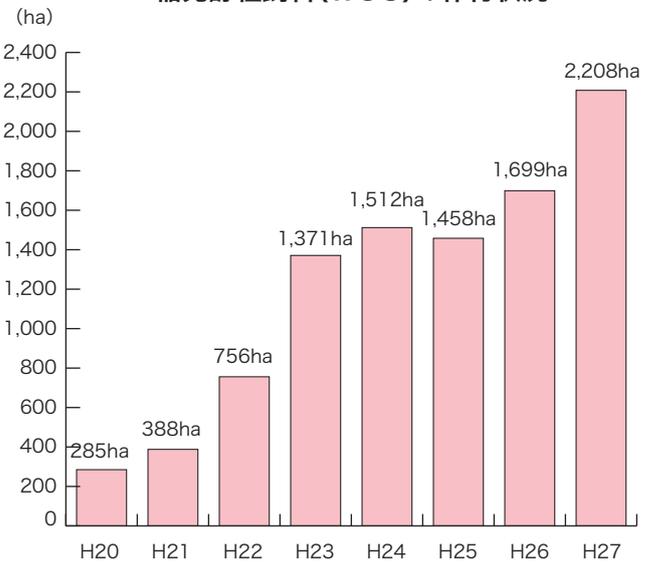
1. 飼料作物作付状況



飼料用米の作付状況



稲発酵粗飼料(WCS)の作付状況



(正誤) H26年数値は「大分の畜産 2014」で示されたものから、稲発酵粗飼料 (WCS) は下記の通り修正
 【稲発酵粗飼料 (WCS)】 誤：1,700ha → 正：1,699ha

資料：畜産技術室調べ

①飼料作物作付面積

H27年の作付け面積は10,600haであり、前年に比べ860ha (8.8%) 拡大した。

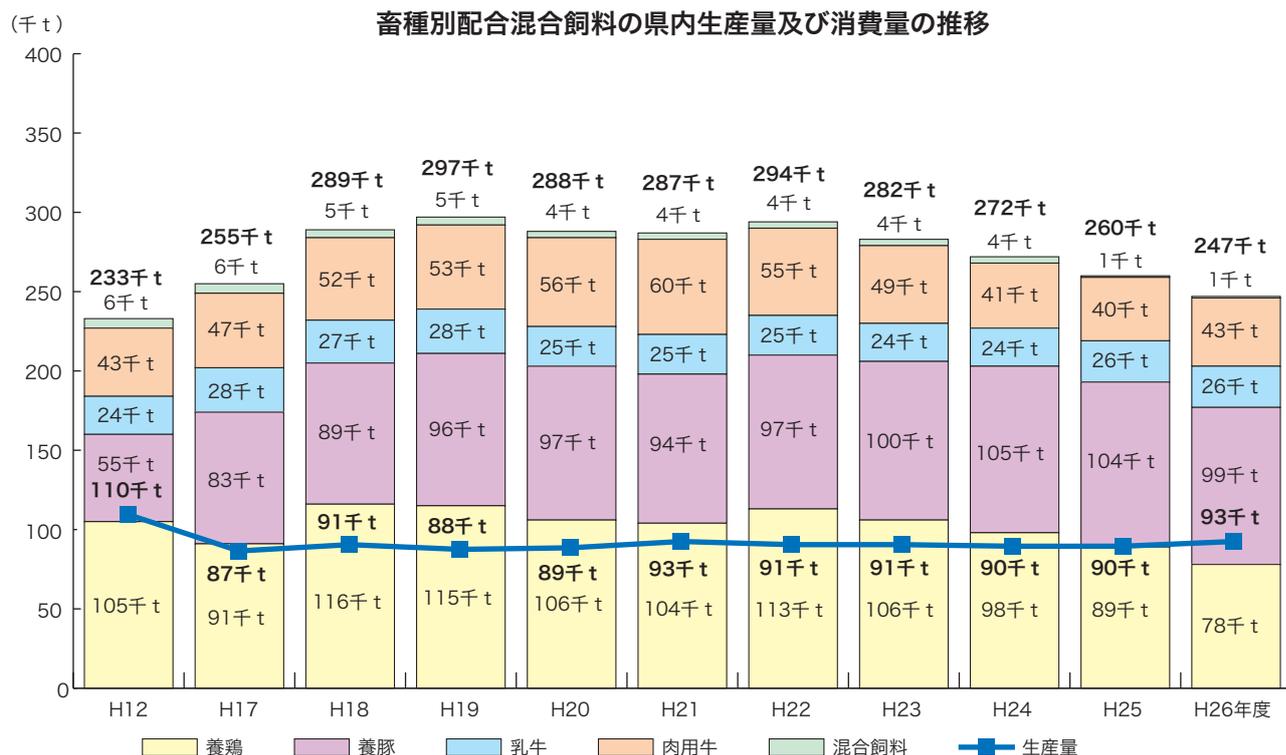
②飼料用米の作付状況

H20年より作付面積の拡大が進み、H24、25年はやや減少したものの、水田活用の直接支払交付金によりH26年から拡大に転じ、H27年は1,350haと、前年に比べ296ha (28.1%) 増加した。

③稲発酵粗飼料 (WCS) 作付状況

H27年の作付面積は2,208haで、前年に比べ509ha (30.0%) 増加している。

2. 配合混合飼料



(注) 混合飼料：行政や流通の上から、ある特定成分の補給又は輸入関税の免税措置を受けられることを目的に製造される配合飼料の一種。
 配合飼料：2種類以上の飼料原料を一定の割合で混合した物。我が国では一般に家畜・家さんの種類や飼料目的に応じて、必要な養分を十分含むように市販されているものが多い。
 四捨五入の関係で内訳の計は必ずしも総数に一致しない。

県内の全畜種における配合混合飼料の総消費量はH19年度以降減少傾向にあり、H26年度は前年比95.0%の247千tに減少している。
 畜種別では、養豚、養鶏で飼養頭羽数の減少により消費量は減少傾向にあるが、肉用牛、乳用牛はほぼ横ばいで推移している。
 また、配合混合飼料の県内生産量は、ここ数年ほぼ横ばいとなっている。



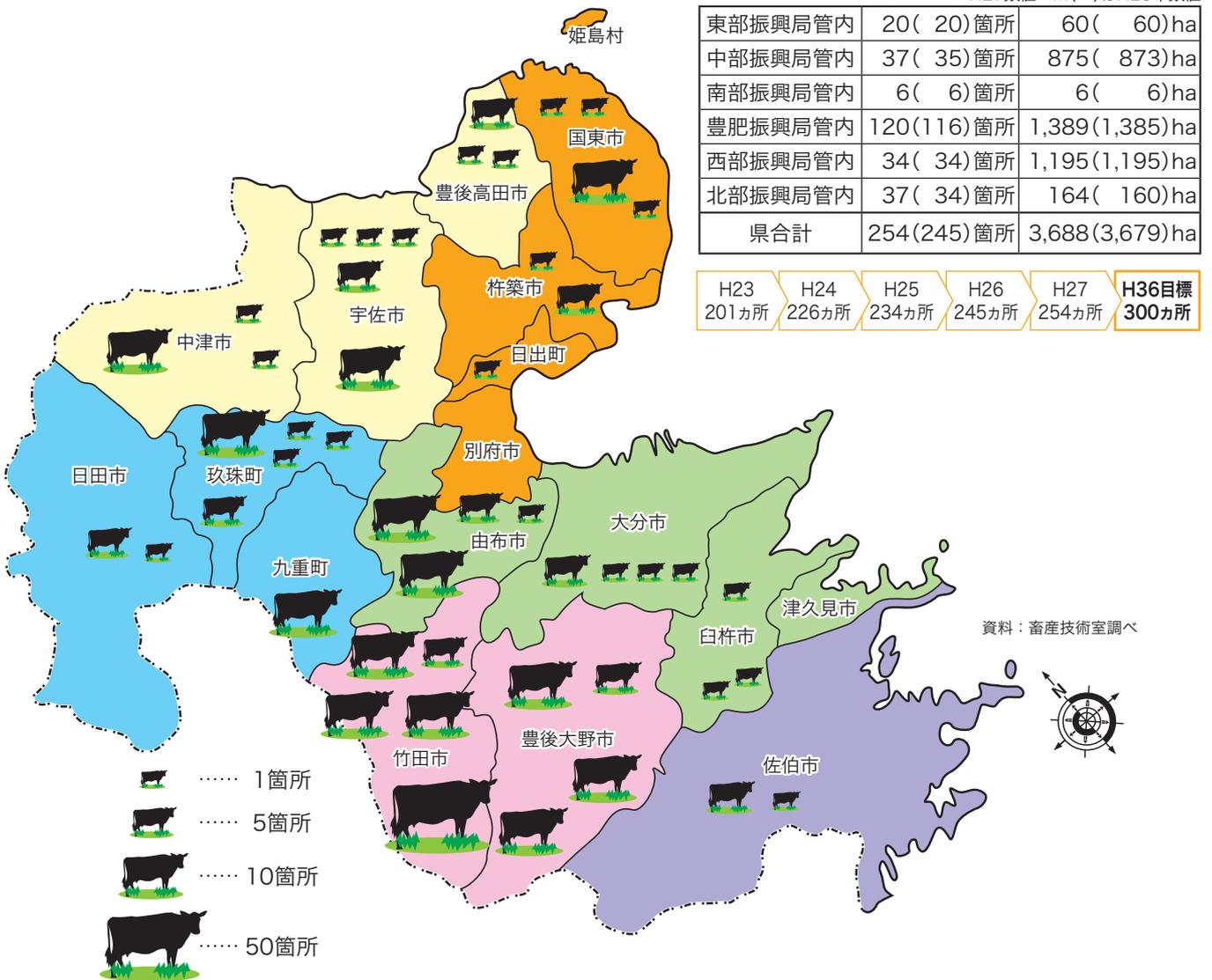
大分県酪農振興公社日田混合飼料供給センター
 圧縮梱包機の導入



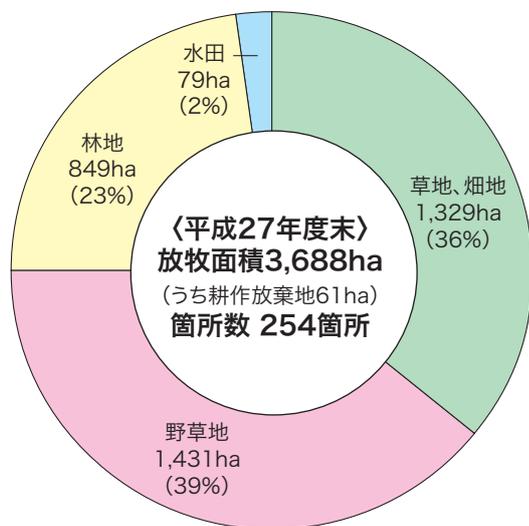
「豊後・米仕上牛」県産飼料米を給与

3. 放牧取組状況

(1) 大分県における「おおいた型放牧」分布図



(2) おおいた型放牧面積の地目別内訳



おおいた型放牧は耕作放棄地の解消や、繁殖雌牛の飼養管理の省力化を目的として、近年、導入地区が大きく増えている。特に耕作放棄地解消を目的に集落単位で取り組む例が多く、地目別面積の内訳でも野草地1,431ha (39%)と林地849ha (23%)で全体面積の半数以上を占めている (62%)。



シバ型草地における親子周年放牧

IV 家畜衛生・畜産環境

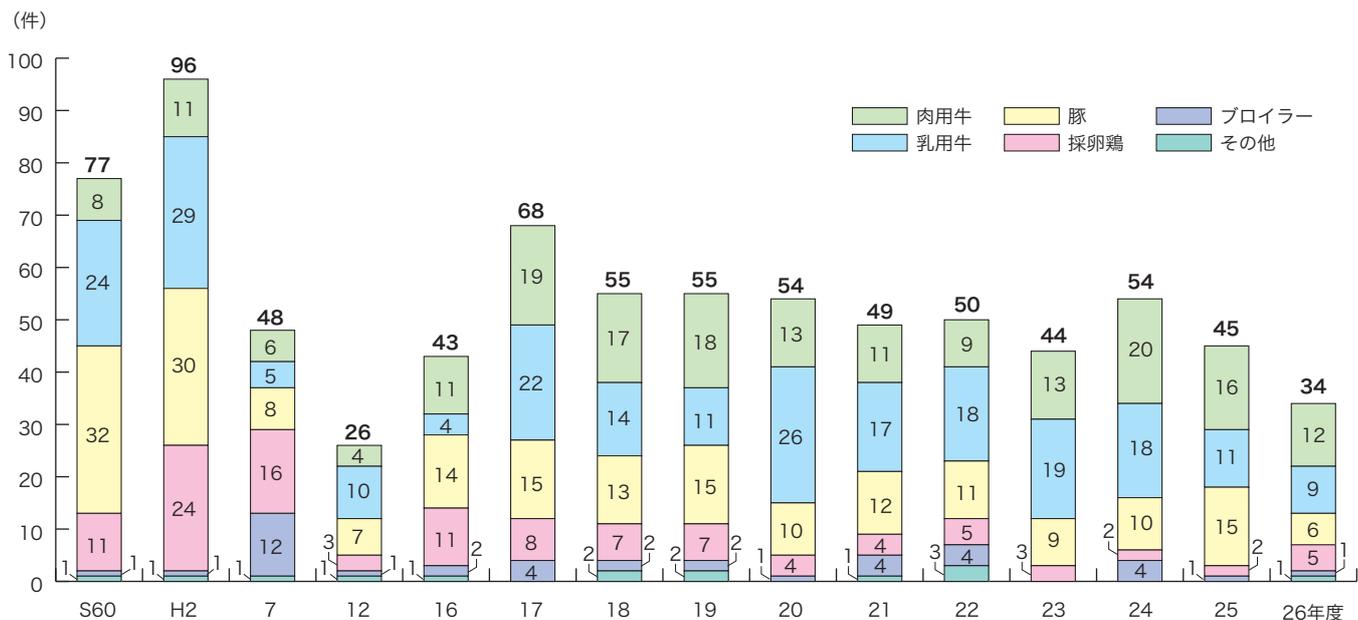
1. 監視伝染病の発生状況

区分	監視伝染病																																						
	法定伝染病										届出伝染病																												
	炭疽	結核病	ヨ―ネ病	性馬貧血	豚コレラ	ニスルカ	ネラ感染症	家きんサルモ	高病原性鳥インフル	ふそ病	TSE	アカバネ病	鼻気管炎	牛伝染性	牛白血病	ルス感染症	アイノウイ	病イバラキ	破傷風	気腫疽※	ネオスポラ症	下痢粘膜炎	牛ウイルス性	キ―エス	胃腸炎	性下痢	豚丹毒※	サルモネラ症	マレック病	気管炎	伝染性喉頭	ロイコトゾーン	鶏痘	悪性カタル熱	レプトスピラ症	豚PRRS	豚赤痢		
牛・豚	牛	牛	馬	豚	鶏	鶏	鶏	鶏	豚	羊	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	豚	豚	豚	豚	牛・豚	鶏	鶏	鶏	鶏	牛	犬	豚	豚				
S50				2	1,697				291										10																				
51			1		120				80																														
52																																							
53																																							
54																																							
55																										1,843													
56																																							
57	1																								4,011														
58					19,427				66																1,584	1													
59									3																	10													
60									113																37														
61									29																5														
62																	19	3							14														
63																									16														
H元						2,276													2					15															
2		1							10										3					18															
3																								12															
4																								14															
5																								12															
6																								12															
7																								12															
8																								11															
9			3													2								17	30														
10											11	1	17	2									6																
11											21	31	10										4			2	69	1,600											
12												19								8	1					2													
13			1									11								2					3										1	2			
14			1									24													42	110										1	1		
15			13									14	61							1	2			150	127	48	2												
16			8				7	1				3	53						1	1	1	1			76	4										1			
17			2										49												84	5	9												
18			10						1		12	71													102	3	6											4	
19			5								1	30													66														
20			5									38													90	9													
21			9								2	42								2					149	5			6	100					2	7			
22			6						1			1	44							2					136	2									1				
23			9				9		1		1	52								1					57	2													
24			4									30													43	7													
25			1									39								3					28		8												
26			5									25							4						9427	112	3												

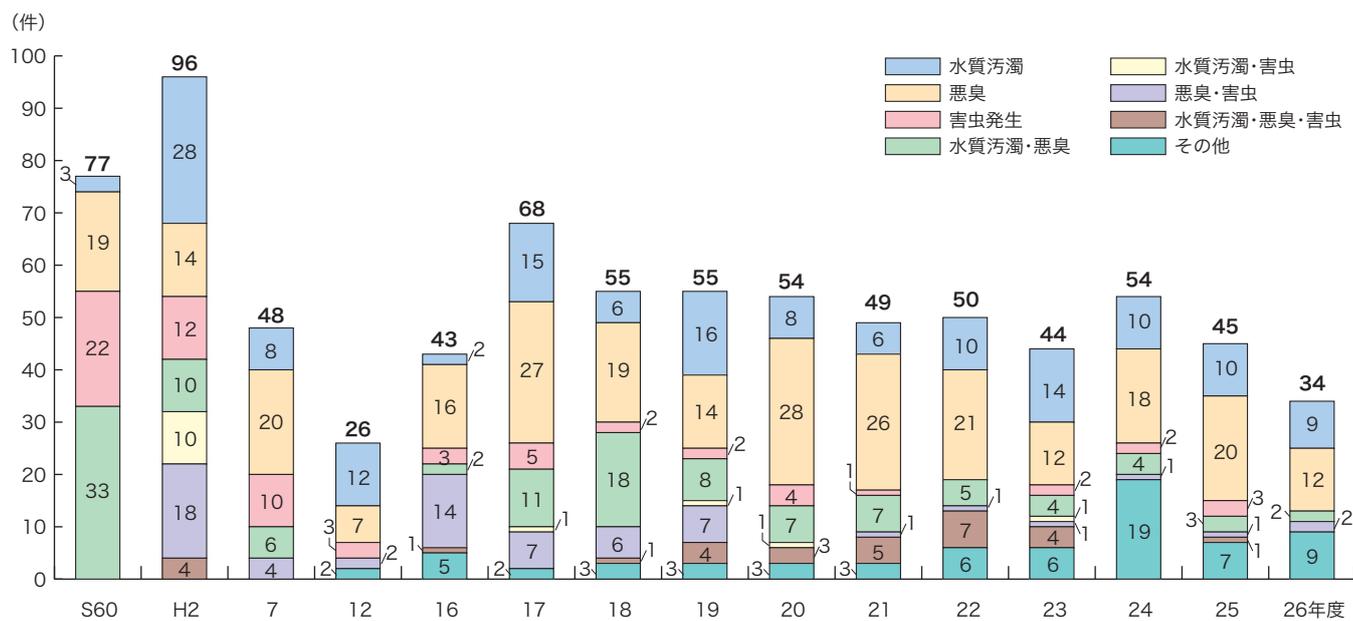
※印の疾病は平成9年度まで法定伝染病
資料：畜産振興課調べ

2. 環境汚染問題畜種別発生件数

(1) 畜種別苦情発生件数



(2) 種類別苦情発生件数



埋却溝を掘削した実践的な防疫演習



防疫演習には自衛隊が参加

V 平成28年度大分県畜産関係補助事業等（抜粋）

大分県畜産関係予算のうち主要なものを掲載・紹介しています。

1 畜産振興課関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	おおいた豊後牛流通総合対策事業	・県産和牛ブランド確立推進事業	おおいた豊後牛の認知度向上のための活動等に対して助成 【事業主体】大分県豊後牛流通促進対策協議会	流通推進班
肉用牛 養豚	畜産物価格安定対策事業	・肉用牛肥育経営安定対策事業 生産者積立金助成事業 ・肉用子牛生産者補給金制度 ・肉豚価格安定対策事業	畜産経営の安定を目的として、肥育牛・肉豚では粗収益が生産費を下回った場合、子牛では販売価格が合理化目標価格を下回った場合の補給金等を交付するための生産者積立金の造成を支援。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会	畜産企画班
全般	獣医師確保対策事業	・獣医師確保特別修学資金給付事業 ・獣医系大学インターンシップ事業	獣医師確保を目的とした、大学卒業後に大分県内で公務員獣医師又は産業動物診療獣医師になることを条件とした給付金の給付や、家畜保健衛生所等県機関でのインターンシップに係る経費に対する補助。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会	衛生環境班

2 畜産技術室関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	NEW! 肉用牛生産基盤拡大緊急支援事業	・繁殖雌牛基盤拡大対策 ・肥育牛預託緊急支援対策 ①素牛預託 ②飼育管理預託	肉用牛の生産基盤を強化するため、繁殖雌牛の増頭経費の一部を支援するとともに、大分県畜産公社が行う肥育預託貸付制度の素牛預託に加え、管理経費を支援する飼育管理預託に取組ことで、「おおいた豊後牛」の安定供給とブランド確立を図る。 【事業主体】(繁殖)市町村、(肥育)(株)大分県畜産公社	生産振興班
肉用牛	NEW! 肉用牛競争力強化対策事業	・肉用牛生産基盤強化施設整備事業 (競争力強化対策)	持続可能な肉用牛生産基盤の確立に向け、畜産クラスター計画に基づく地域内連携による収益向上に向けた畜舎等の整備に対して支援。 【事業主体】畜産クラスター協議会	生産振興班
		(大規模経営体育成対策)	生産基盤を支える中心的担い手を育成するため、規模拡大のための施設や省力化機械の整備に対して支援。 【事業主体】市町村	
		・肉用牛繁殖産地活性化モデル事業	繁殖雌牛の地域内預託飼育システム導入や放牧地の活用促進等、大規模経営体の育成に係るモデル的な取組の推進に対して支援。 【事業主体】市町村等	
肉用牛	NEW! おおいた豊後牛品質向上対策事業	・おおいた豊後牛品質向上対策 ・技術指導強化	高品質かつ安全・安心で美味しい「おおいた豊後牛」のブランド確立のため、産肉・オレイン酸生成能力に優れた県有種雄牛精液を活用した人工授精及び受精卵移植に対して経費の一部を支援。 【事業主体】市町村等	生産振興班
肉用牛	スーパー豊後牛作出対策事業	・肉用牛育種改良推進事業委託事業	生産者組織や関係機関が一体となって肉用牛の育種改良を推進するため、種雄牛造成のための指定交配推進や技術研修会の開催等を委託する。 【大分県肉用牛改良組合連合会】	生産振興班

2 畜産技術室関係補助事業等（前ページからの続き）

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	第11回全国和牛能力共進会対策事業	・ 出品選抜強化事業	平成29年9月に開催される第11回全国和牛能力共進会に対する出品対策の強化に係る取組に対して支援。 【事業主体】 第11回全国和牛能力共進会大分県推進協議会	生産振興班
酪農	酪農振興総合対策事業	・ 後継牛預託システム推進対策事業	酪農経営体の労力不足解消及びを既存畜舎の有効利用を目的とした後継牛預託システム推進のため、県内預託牧場へ乳用子牛を預託した際にかかる経費を助成。 【事業主体】 大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
		・ 受精卵移植活用推進事業	乳外所得向上による酪農経営体の経営改善を目的とした黒毛和種受精卵移植の取組を推進するため、受精卵移植を行い、不受胎となった牛の移植費用に要した経費（初回分のみ）を助成。 【事業主体】 大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
		・ 経営体育成対策事業	酪農経営体の育成を図るために開催する研修会等に要する経費を助成。 【事業主体】 大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
酪農	酪農経営生産性向上対策事業	・ 酪農支援対策施設整備事業	酪農経営の安定と所得確保を目的として、生産性向上に必要な省力化やカウコンフォート等に係る施設等整備を支援。 【事業主体】 市町村及び大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
		・ 乳用優良雌牛貸付事業	中核的酪農家の育成を目的として、酪農家を対象とした乳用優良雌牛の貸付に対して支援。 【事業主体】 大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
養豚	県産豚競争力強化対策事業	・ 大分県産豚肉統一ブランド流通対策事業 ・ 大分県産豚肉ブランド確立対策事業	県産豚肉の統一ブランド化を図り、大分県産豚肉の消費・流通の強化を目指す協議会に対し、ブランド豚肉の安定供給、フェア等の販路拡大活動に対して支援するとともに、美味しさの指標であるオレイン酸の測定体制を整備。 【事業主体】 畜産クラスター協議会等	流通推進班 (畜産振興課)
		・ 養豚競争力強化対策整備事業	畜産クラスター計画に基づき、畜産を営む法人が規模拡大等による出荷頭数の増加を図るため、施設整備等の費用に対して助成。 【事業主体】 畜産クラスター協議会	生産振興班
飼料	草地畜産基盤整備事業	・ 草地畜産基盤整備事業	「安全」「安心」な自給飼料の活用促進及び規模拡大等による担い手の経営改善を進めることを目的として、飼料生産基盤の整備及び畜舎等の整備に対する補助。 【事業主体】 (公社)大分県農業農村振興公社	酪農・飼料班
飼料	県産飼料利用拡大対策事業	・ 飼料用米SGS（ソフトグレインサイレージ）等の普及推進	濃厚飼料であるSGSの生産・流通の体制づくりのため、検討会やSGS調製・給与実証を通じて構築する取組に対し支援。 【事業主体】 市町	酪農・飼料班

(注) 詳細等については、各振興局農山(漁)村振興部企画・農政班(南部振興局にあっては企画・農政・集落班)又は各担当班までお問い合わせいただけます。

3 畜産振興課及び畜産技術室関係予算等のうちピックアップ事項

酪農・肉用牛生産近代化計画の策定

(概要) 国の基本方針に沿って、大分県の酪農及び肉用牛生産を総合的に振興するため、平成37年度を目標として計画を策定。

「人・牛・飼料」の視点での基盤強化に対する取組を中心として、新たに畜産クラスターの活用を追加。

新たな「大分県酪農・肉用牛生産近代化計画」(概要版)

1 目的(趣旨)

- (1) 酪農及び肉用牛生産に関する法律(昭和29年6月14日法律第182号)に基づき、国が「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」を策定し、この基本方針に沿って県計画を策定する(本計画は目標を10年後に設定し、5年毎に見直しを行う)
- (2) 市町村における酪農及び肉用牛生産の合理的な発展を図るため、県計画に基づいて市町村計画を作成する
- (3) 今回の計画策定に当たり、新たに「人・牛・飼料」の視点での基盤強化及び畜産クラスターの活用を盛り込むことが求められた

2 基本計画で定める事項

(1)酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

- ① 担い手の育成と労働力負担の軽減に向けた対応
- ② 乳用牛・肉用牛飼養頭数の減少への対応
- ③ 自給飼料生産基盤の確立
- ④ 家畜衛生対策及び畜産環境対策の充実・強化
- ⑤ 畜産クラスターの取組等による畜産と地域の活性化
- ⑥ 畜産物の安全確保、消費者の信頼確保、ニーズを踏まえた生産・供給の推進

(2)生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標

- 【乳用牛】 経産牛頭数、年間搾乳量
【肉用牛】 繁殖雌牛頭数、肥育牛頭数

(3)近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標…目指すべき経営形態について記載

- 認定農業者の目標(所得400万円/年、労働時間2,000時間/年)が基準

(4)乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項…戸別の経営規模拡大に関する目標及び取組について記載

(5)飼料の自給率の向上に関する事項

- ・飼料増産と利用向上の取組

(6)集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛の流通の合理化に関する事項

- ・食肉処理加工施設(畜産公社)の再編整備

(7)その他酪農経営及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

- ・畜産クラスターの推進方針

3 「人・牛・飼料」に基づく目標

① 人(担い手・労働力の確保)

【担い手の育成と労働負担の軽減】

- ・新規就農の確保と担い手の育成
- ・放牧活用の推進
- ・外部支援組織の活用推進
- ・省力化機械の導入推進

- ・遊休施設の利活用、円滑な経営継承システムの整備
- ・レジャカ制度等を活用したおおい型放牧の推進
- ・キャトル・フリーディング・ステーションの整備、乳用後継牛預託システムの確立、ヘルパー組織の活用等によるワークライフバランスの構築
- ・コントラクターやTMRセンターに対する機械整備の推進
- ・自動給餌機等、省力化機械の導入推進

② 牛(飼養頭数の確保)

【乳用牛・肉用牛飼養頭数の減少への対応】

- ・生産構造の転換等による規模拡大
- ・肉用牛生産における肥育期間の短縮
- ・計画的な乳用後継牛の確保と和子牛生産の拡大
- ・乳用牛の供用期間の延長
- ・需給環境の変化に応じた家畜改良の推進
- ・牛群検定の加入率の向上

- ・肥育牛預託事業を活用した増頭
- ・繁殖・肥育一貫経営の推進による増頭
- ・キャトル・フリーディング・システム及び後継牛預託システム等、管理作業の外部化により、飼養頭数の増加推進
- ・個体能力に応じた効率的な肥育及び適期出荷
- ・性別別精液や受精卵移植技術の活用
- ・乳用牛の供用期間の延長(3.1産→3.5産)

③ 飼料(飼料費の低減・安定供給)

【自給飼料生産基盤の確立】

- ・県産粗飼料の生産・利用拡大
- ・放牧活用の推進
- ・飼料用米等県産飼料穀物の生産・利用の拡大
- ・エコフィードの生産・利用の促進

- ・コントラクターの育成、TMRセンターの機能強化
- ・稲発酵粗飼料(WCS)等、良質国産粗飼料の生産・利用拡大
- ・多収米品種・栽培技術の普及
- ・ソフトグレインサイレージ(SGS)等、新たな濃厚飼料原料の生産促進
- ・畜産業と食品産業界との連携により、食品残さを原料としたエコフィードの生産・利用拡大

5 畜産クラスターの取組

- 〈畜産農家を核とし、耕種・食品産業界等も含めた関係者が連携・協力し、地域全体で畜産の収益性向上を図る取組〉
- ・畜産クラスター組織の設立を推進
 - ・中心的な役割を担う畜産経営体等の施設、機械等の整備を支援

6 酪農及び肉用牛生産目標(平成37年度目標)

【酪農】

- ・経産牛頭数 9,370頭(H25) → 10,700頭(H37) ※H25対比114.2%
- ・総飼養頭数 14,100頭(H25) → 15,500頭(H37) ※H25対比109.9%
- ・年間搾乳量 8,528kg/頭(H25) → 9,000kg/頭(H37) ※H25対比105.5%
- ・生乳生産量 82,120t(H25) → 96,300t(H37) ※H25対比117.3%

【肉用牛】

- ・繁殖雌牛 17,100頭(H25) → 18,700頭(H37) ※H25対比109.4%
- ・肥育牛 12,100頭(H25) → 15,600頭(H37) ※H25対比128.9%

【自給飼料】

- ・飼料作物の作付け延べ面積 9,370ha(H25) → 10,862ha(H37) ※H25対比115.9%

平成28年度 肉用牛生産基盤拡大緊急支援事業の概要

(事業の目的)

生産者の高い増頭意欲に応え、肥育及び繁殖農家の連携のもと、「おおいた豊後牛」の安定供給に向けた生産基盤を強化し、安全・安心で美味しい「おおいた豊後牛」のブランドの確立を図る。

(事業の内容)

事業区分	予算額	事業の内容	補助率等
【継続】 繁殖雌牛基盤 拡大対策	千円 35,000	積極的に規模拡大を図る繁殖農家が、繁殖雌牛の増頭を行う際の経費の一部を支援 □助成頭数 500頭 (自家保留350頭、外部導入150頭) □助成額 105千円/頭 □要件 自家保留：産肉能力育種価B以上 外部導入：オレイン酸生成能力 産肉能力育種価A以上	県1/3 市町村1/6
【継続】 肥育牛預託緊急 支援対策	600,000	子牛生産頭数の減少による全国的な素牛価格の高騰に対応して、肥育農家の規模拡大を後押しするため、(株)大分県畜産公社に肥育牛預託貸付制度を創設することにより、円滑な素牛導入を支援 □貸付金(素畜費のみ) H27 275,000千円 H28 325,000千円 □貸付先 (株)大分県畜産公社 □貸付要件 規模拡大計画を有するもの □枝肉販売時に素畜費を返済	無利子
【新規】 肥育担い手 確保対策	392,000	空き牛舎等を活用し、新たに飼育管理預託方式で肥育生産に取り組む担い手を確保・育成し、「おおいた豊後牛」の肥育基盤を強化 □貸付金(素畜費、飼料費、管理費) H28 392,000千円 □貸付先 (株)大分県畜産公社 □枝肉販売時に素畜費、飼料費、管理費を返済	無利子

4 農林水産省施策の一部紹介

(施策名) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(畜産クラスター事業)

(施策概要) 畜産クラスター関連3事業を一体的に基金化。地域の関係者が連携し、一体となって、地域全体で収益性向上を図る畜産クラスターの趣旨を徹底、畜産・酪農の体質強化につなげるもの。

(事業メニュー)

(1) 実証支援事業

- ①概要 収益力向上を目的とした新たな取組の実証等を推進するため、実証に要する資材費や先進地調査等を支援。
- ②手続 国直接採択事業。事業主体(畜産クラスター)から農林水産省九州農政局長へ直接、申請。

(2) 施設整備事業

- ①概要 地域の収益性向上を目的とする畜産クラスター計画達成に向け、必要とされる畜舎等の施設整備及び補改修等を支援。
- ②手続 間接補助事業。事業主体(畜産クラスター)から市町村、県を通じて農林水産省へ申請。

(3) 機械導入事業

- ①概要 地域の収益性向上を目的とする畜産クラスター計画達成に向け、必要とされる機械等のリースを活用した導入等を支援。
- ②手続 (公社)中央畜産会を基金管理団体とし、計画について県のヒアリングを受けた上、畜産協会を通じ申請。

(4) 畜産・酪農生産力強化対策事業

- ①概要 地域の収益性向上を目的とする畜産クラスター計画達成に向けた性判別受精卵活用や発情発見装置導入等を支援。
- ②手続 (公社)中央畜産会を基金管理団体とし、県域団体等が申請。

(5) 畜産経営体質強化支援資金融通事業

- ①概要 意欲ある畜産農家の経営改善を支援するため、既往負債の償還負担を軽減する長期・低利(当初5年間は無利子)の一括借換資金を融通。
- ②貸付対象者 畜産クラスター計画における中心的な経営体又は認定農業者のうち、酪農、肉用牛又は養豚経営を営む者

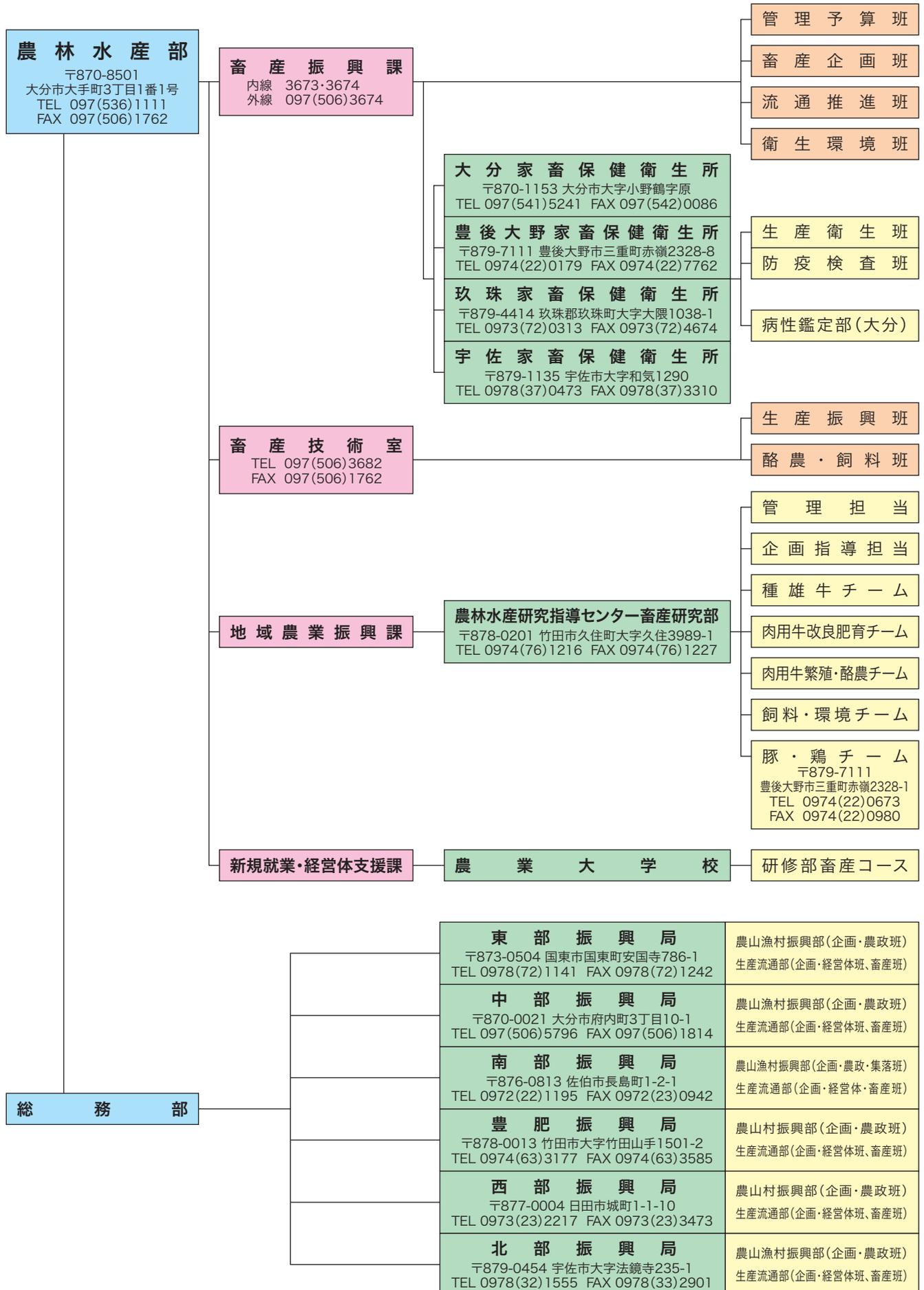
(資料 1)

畜産関係団体等一覧

名称	代表者	郵便番号	住 所	電話番号	FAX 番号
(公社)大分県畜産協会	会 長 近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 (JA 全農大分県本部内)	097-545-6591	554-4049
大分県家畜人工授精師協会	会 長 梶原 美行	870-8501	大分市大手町 3-1-1 (県庁畜産振興課内)	097-506-3678	506-1762
大分県草地飼料協会	会 長 坂本 和昭	870-8501	大分市大手町 3-1-1 (県庁畜産技術室内)	097-506-3684	506-1762
(一社)大分県配合飼料価格 安定基金協会	理事長 帆秋 忠俊	870-0025	大分市顕徳町 2-1-3 カ一サ阿部 203	097-534-2727	534-0991
大分県家畜商業協同組合	理事長 石田 和男	870-0044	大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階)	097-532-8577	532-8582
(公社)大分県獣医師会	会 長 麻生 哲	870-0901	大分市西新地 1-2-29	097-555-9527	555-9528
(株)大分県畜産公社	代表取締役社長 佐藤 洋	879-7305	豊後大野市犬飼町田原 1580-29	097-578-0290	578-0308
(有)大分県酪農振興公社	代表取締役社長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4222	586-4226
(公社)全国和牛登録協会 大分県支部	支部長 近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階)	097-574-8588	574-8258
大分県養豚協会	会 長 工藤 厚憲	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養鶏協会	会 長 鈴木 明久	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養蜂組合	組合長 枝次 秀樹	879-5506	由布市挾間町挾間 604	097-583-3307	—
大分県食肉事業協同組合 連合会	会 長 清田 浩徳	870-1121	大分市鷲野 929-3	097-529-6544	529-6599
大分県農業協同組合中央会	会 長 佐藤 洋	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 (大分県農業会館内)	097-538-6366	538-7125
大分県信用農業協同組合 連合会	会 長 二宮 伊作	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 (大分県農業会館内)	097-538-6385	535-2746
全国農業協同組合連合会 大分県本部	本部長 長野 博文	870-0844	大分市古国府 1220	097-544-0046	545-9532
大分県農業共済組合連合会	会 長 日野 立明	870-0822	大分市大道町 3-1-1	097-544-8110	544-8242
大分県酪農業協同組合	代表理事組合長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4222 (管理部)	586-4226
九州乳業株式会社	代表取締役社長 檜垣 周作	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4135	586-4136
(社)大分県酪農ヘルパー協会	会 長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4225 (酪農部)	586-4226
大分県牛乳普及協会	会 長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪中央支所内)	097-586-4094	586-4095
(株)大分県酪食肉公社	代表取締役社長 安藤 康宣	870-0108	大分市大字三佐字新港 2405-2	097-521-4452	522-2743

(資料 2)

畜産関係機関県組織機構 (平成28年4月1日現在)



未来を拓く おおいた豊後牛たち

種雄牛



平福安

気高系雌牛との相性抜群

寿恵福-安平-糸晴(佐賀)



現場後代検定成績
BMS 7.3
ロース芯面積 61.2 cm²
枝肉重量 479.9 kg



検定牛(去勢)

BMS No.12
枝肉重量 593.2 kg
ロース芯 84 cm²

BMS
県内歴代 1位

光星

光照福-平茂勝-福桜(宮崎)

第10回全国和牛能力共進会
第1区(若雄の区)首席

農林水産大臣賞

登録点数 88.8点
(県内1位、国内7位)



兄弟牛肥育成績良好

玉吹雪

藤平茂-平茂勝-初藤

枝肉重量、ロース芯面積、ハラ厚、BMSで高評価。気高系の強い血統であり糸桜系、但馬系雌牛との交配を推奨。



平成22年度合同調査会トップクラス

湯布安平

安平-安福(岐阜)-招福

ロース芯面積、BMSで育種価高評価。県下で多く飼養される糸桜系及び気高系雌牛との交配を目的に造成された種雄牛。



但馬系種雄牛

寿恵高福

寿恵福-平茂勝-神高福

現場後代検定ではBMSで大分県歴代2位。育種価評価では脂肪交雑とロース芯面積で高い評価を得ている。平成26年広域後代検定ではBMSでトップの成績。気高系、但馬系雌牛との交配を推奨。



**H26 広域後代検定
BMS 1位**

福之藤

藤平茂-糸福-八重福

現場後代検定ではBMSで6.3という高評価。枝肉重量も安定した成績。育種価評価ではBMSと皮下脂肪厚で高い評価を得ている。交配は糸桜系、但馬系雌牛を推奨。



桜花国

第1花国-紋次郎-糸福

現場後代検定成績では去勢牛で枝肉重量・ロース芯面積・BMSが顕著に優れていた。気高系や但馬系の雌牛に交配を推奨。



BMS 12
ロース芯面積 70 cm²
枝肉重量 613.0 kg

豊之維新

安福勝-金幸-神高福

現場後代検定成績はBMSで歴代2位タイを記録。気高系や糸桜系の繁殖雌牛の交配を推奨。



BMS 12
ロース芯面積 77 cm²
枝肉重量 429.6 kg

平成27年度合同調査会成績

	1号牛	2号牛	3号牛
輝玉福	BMS 9	8	6
第1花国-糸藤-平茂勝	ロース芯面積(cm ²) 65	55	53
	枝肉重量(kg) 557.0	498.0	580.0
安森照	BMS 10	11	10
光平照-安平-隆桜	ロース芯面積(cm ²) 67	78	51

県外への精液譲渡致します

【お問い合わせ】 農林水産研究指導センター畜産研究部種雄牛チーム
TEL : (0974)76-1317 FAX : (0974)76-1307

(資料 4)

県内の主要なふれあい牧場

町田バーネット牧場

大分県玖珠郡九重町町田
TEL 0973-78-9446 FAX 0973-78-9449

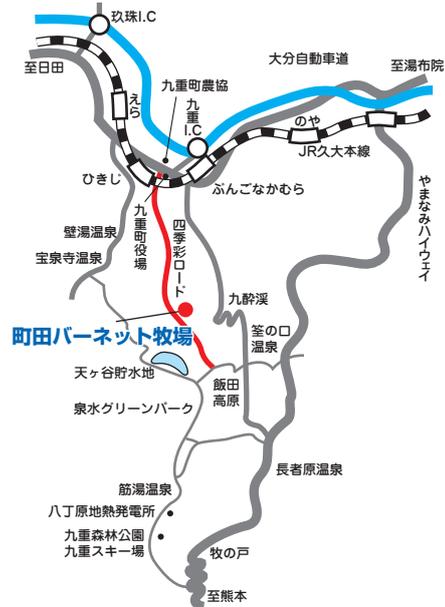
自然の景観が素晴らしい町田バーネット牧場は豊後牛をはじめいろいろな動物を飼育している。ポニー、ヤギ、ウサギ、地鶏に直接エサを与えたり、触ったり、動物とのふれあいを通して忘れかけた自然のすばらしさを満喫することができる。



○駐車場/300台 ○売店/有 ○営業時間/夏10:00~18:00 冬10:30~17:30 ○バーベキューハウス/有 ○休日・休館日(冬期)/第2・4火曜日 ○乗馬体験(有料)/5月連休・夏休みのイベント時

【アクセス】

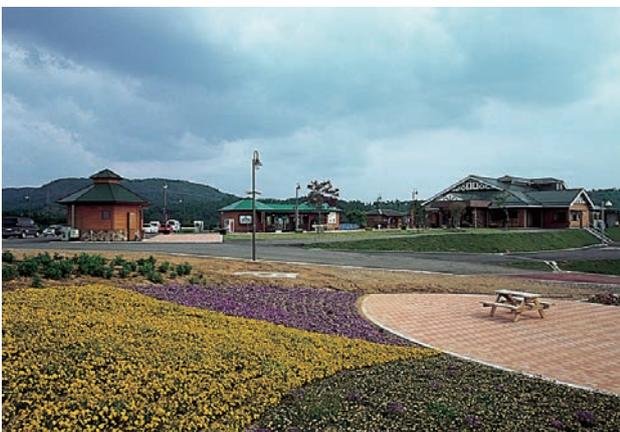
- 電車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- 車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- 車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分



カウベルランドくす

大分県玖珠郡玖珠町大字戸畑9848-1
TEL0973-73-8037・FAX0973-78-8668

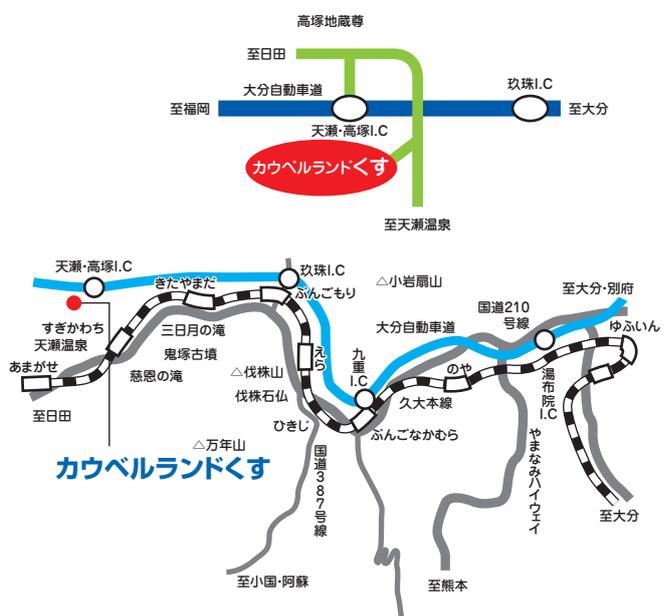
都市と農村の交流拠点として建設され、町内外の多くの人に親しまれている。場内には特産物直売館としてのレストラン(300人収容)、キャンプ場、小動物館そして四季折々の花が栽培される花壇等の施設が点在している。



○駐車場/340台 ○売店/有 ○営業時間/10:00~21:00 レストラン11:00~21:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○宿泊施設/有

【アクセス】

- 電車/JR久大本線豊後中川駅下車、車で20分
- 車/JR久大本線豊後中川駅下車、車で20分
- 車/JR久大本線豊後中川駅下車、車で20分



ガンジーファーム

大分県竹田市久住町大字久住4004-56
TEL0974-76-0760

久住山の山麓の高原には名前の由来にもなったガンジー乳牛が飼育されている。乳製品工場、レストランや資料館が点在し、自家製乳製品はおみやげにも最適。ふれあい牧場（羊、ヤギ等）、ポニーハウスも有る。



○駐車場/100台 ○売店/有 ○営業時間/9:00~17:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○搾乳体験(晴れの日のみ)/土・日・夏休み ○オリジナル牛乳・乳製品/牛乳、アイスクリーム、チーズ、ヨーグルト他

【アクセス】

- ◎電車 / JR豊肥本線豊後竹田駅下車、車で30分
- ◎車 / やまなみハイウェイ(九州横断道路) 瀬の本交差点から15分



みどりマザーランド

〒870-1203 大分県大分市大字廻栖野3231
TEL 097-586-4183 (九州乳業株) 平成12年4月開園

都市(大分市)に隣接した地域にあって、豊かな自然に恵まれた山と緑が織り成す雄大な景観に浸りながら、広大な芝地の中での遊観。複合的遊具等、変化に富んだ施設が整備され、四季を通じて広く住民の「交流の場」として利用されています。



○駐車場/300台(イベント開催時1,000台)大型バス10台(イベント開催時20台) ○ふれあい・研修施設/ふれあい牧場、ふれあい公園施設、研修施設ふれあい棟・見学コース(製造行程) ○入園時間/9:00~17:00

【アクセス】

- ◎車 / 大分市中心街より20分



(資料5)

平成27年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
1月 9日	(株)大分県畜産公社新施設建設起工式（病畜棟・杭打ち工事）
2月10日	農林水産省と連携した口蹄疫防疫演習を開催
2月12日	九州・沖縄・山口家畜防疫対策連携会議（大分県）
2月13日	九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会（大分県）
2月17日	肉用牛ゼミナール専門研修を農業大学校で開催
2月19日	矢方盛士・義子夫妻（九重町）が第46回大分県農業賞で最優秀賞を受賞
2月25日	オレイン和牛セミナー（鳥取県）にて「おおいた豊後牛」をPR
3月17日	大分市レンブラントホテルにてオレイン酸含量による食べ比べイベント「豊味の証を味わう会」を開催 消費者約130名が参加
3月19日	大分県畜産研修センター後継者養成研修 修了式
4月 1日	平成27年度から大分県で肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン）の地域算定を開始 地域の実態により合った算定方式を導入
4月14日	大分県畜産研修センター後継者養成研修 入所式
4月15日	第26回大分県ブラック&ホワイトショウが開催され、重見宝弘氏（玖珠町）がグランドチャンピオンを獲得
7月3日～5日	マカオ・フランチイズ展に参加し「おおいた豊後牛」をPR ホテルオークラとの商談が成立し、9月から輸出を開始
7月21日	(株)大分県畜産公社新食肉処理施設の安全祈願祭（起工式）を現地で開催し、本体工事に着工 平成28年度の新施設稼働に向け急ピッチで工事を開始
7月31日～8月1日	サンリブ木の葉モール（福岡市）にて大分フェアを開催。「おおいた豊後牛」をPR
8月 3日	(株)学食が生産するおおいた冠地どりが、別府モスク認定第1号のハラール認証を取得
8月 5日	大阪南港枝肉共励会
8月 5日	(有)藤野屋商店が県内では初めてシンガポール向け食用殻付き卵輸出農場の認定を取得
8月 6日	九州・沖縄・山口ブロック家畜衛生主任者会議（沖縄県）
8月21日	肉用牛ゼミナール流通研修を林業会館で開催し、県内畜産経営者と意見交換
8月21日	神楽坂のフレンチ「ラリアンス」大堀シェフ来県 9月におおいたフェアを開催し、おおいた豊後牛の取引を開始
8月26日	「豊後・米仕上げ牛」の販売店舗が30店に拡大し、生産者からスーパー（マルショク）に感謝状を贈呈

平成27年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
8月28日	放牧活用技術研修会の開催
8月29日～30日	「おおいた豊後牛」ヤフオクドーム消費拡大フェア（福岡市）を開催
9月15日～18日	「日本産農水産物食品輸出商談会 in バンコク」に参加し、おおいた豊後牛をPR
9月18日	高病原性鳥インフルエンザ強化推進会議（東京）
9月30日	農林水産省と連携した高病原性鳥インフルエンザ防疫演習を実施
9月30日～10月6日	大阪阪急百貨店梅田店で大分県フェアを開催。「おおいた豊後牛」をPR
10月3日	大分県畜産共進会（肉畜の部）が開催される （有）グリーンストック八幡（玖珠町）が農林水産省生産局長賞を、桑原耕一氏（豊後高田市）が九州農政局長賞を受賞
10月5日	関西焼き肉女王いかりんの「焼き肉トークライブ！」でおおいた豊後牛をアピール（大阪市）
10月10日～12日	「ちくさんフードフェア2015」（神奈川県）において鳥取県、長野県とともにオレイン酸牛肉の講演会に参加。「おおいた豊後牛」をPR
10月14日～18日	英国での大分県農林水産物フェア（ロンドン・フェア）を初めて開催
10月23日～26日	第14回全日本ホルスタイン共進会（北海道）が開催される 大分県出品牛は1等賞1頭、2等賞4頭と全頭入賞を果たした
10月24日	大分県畜産共進会（肉用牛の部）が開催される 相良達美氏（玖珠町）が農林水産大臣賞を、馬場勝信氏（竹田市）が九州農政局長賞を受賞
10月24日～25日	大分県農林水産祭（農業の部）において、畜産フェスティバルを実施 フェスタでは、県産畜産物の出品があったほか、スタンプラリー等のイベントを実施
10月30日	宇佐市で大分県特定家畜伝染病（HPAI）防疫演習を実施 改正された防疫ガイドラインの手順等に従い、発生時の初動防疫対応を確認
11月1日～31日	「おおいた豊後牛」取扱認定店において消費拡大キャンペーンを実施
11月21日～25日	ベトナムのホーチミン・イオンモールにて「おおいた豊後牛」をPR
11月24日～25日	日蜂協九州ブロック大会及び養蜂技術指導講習会を大分オアシスタワーホテルにて開催
11月25日	別府亀の井ホテルにて肉用牛振興協議会主催の「肉用牛経営基盤強化研修会」を開催
11月27日	大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会を開催
12月2日	大阪南港枝肉共励会
12月14日	肉用牛ゼミナール専門研修を別府市で開催。受講生のネットワークづくりを支援



肉用牛の中核的な担い手の育成を図り、平成26年度に開講した「肉用牛ゼミナール」。2年間の専門技術研修や県外先進地視察研修を行い、平成28年2月に閉講式を迎えました。受講した県内若手生産者30名の今後の活躍が期待されます。



平成27年10月23日から26日の4日間、北海道ホルスタイン共進会場（安平会場）をメイン会場に「第14回全日本ホルスタイン共進会」が10年ぶりに開催されました。全国42都道府県からホルスタイン種344頭が出品され、大分県からは未經産3頭、経産2頭の計5頭が出品され、審査の結果全頭入賞を果たしました。

大分の畜産 2015 (平成27年度版)

平成28年3月発行

編集・発行者 大分県 農林水産部 畜産振興課・畜産技術室
〒870-8501 大分市大手町3-1-1 TEL097-506-3674

印刷所 株式会社 インタープリント

※環境に配慮して再生紙を使用しています。